

山友



第 29 号
2017.12.1

岩手県勤労者山岳連盟
 盛岡山友会



◆ 山岳会新時代に向けて	会長 渡邊 健治	1
◆ 山友 写真ギャラリー		2
◆ 専門部報告		4
○山行管理委員会	○事務局	○教育遭対部
○山行企画部	○組織部	○会報部
○自然保護部		
◆ 志向別山行グループ報告		11
○心のスケッチ山行クラブ	○グループ銀世界	○岩手の名山歩こうかい
○県境の風	○ウィークディクラブ	○四季の山
○グループゆうゆう	○盛友ボルダリング倶楽部	
◆ 過去1年の山行実績一覧表(会山行)		21
◆ 2017 みんなの山歩き		26
・山の日は何をしていましたか?	・次回の山行の参考は?	アンケート
◆ 随想 他		
短歌	三澤 信裕	34
秋の虹	中村 美栄子	35
えりも岬とアポイ岳	千田 勝則	36
槍ヶ岳	久保 加世子	37
雲の平周遊	山田 潔	40
拇梅新道ロングトレイル	加藤 桂子	44
私の山登りの原点 ACC-J 茨城の軌跡	木村 一	45
夢の光岳・聖岳	小田 春美	47
◆ 新入会員からのメッセージ		49
高橋豊・柏木幸代・小野由理・櫻庭由季子・亀田英一郎・亀田金花・佐々木善男		
佐々木優子・山口斉・竹田真弓・谷原伸一		

山岳会新時代に向けて

盛岡山友会会長 渡邊 健治

昨年 11 月、会創立 30 周年を祝賀会で祝ってから 1 年が経った。創立直後は 20 人不足だった会員数は、10 年目には 100 人を超し、今に至る 20 年余を 100 人規模で推移してきた。この間、480 人余の仲間が会員となり、共に山を楽しみ、技術を磨き、仲間と語らう時を過ごした。時には会の運営方針で熱く議論したことも、市民でつくる市民のための山岳会として魅力を高めてきたのだと思う。

人がつくる趣味の会だから、考え方や価値観が違うのは当たり前だ。山への向き合い方も人様々で、オールラウンドの総合山岳会を掲げ続けることは並大抵ではない。会を維持し継続できたのは、会員一人ひとりを大切にする民主的な会運営を徹底してきたからだと思う。

声大きい者の意見が幅を利かすのではなく、少数意見やサイレントマジョリティ（声なき多数）に耳を傾け、ベテランも新人も対等な関係を作ること。あえて大きな視点で見ると、個人の尊厳を基本原理とする国際法や我が国憲法に通じる大切な考え方だ。

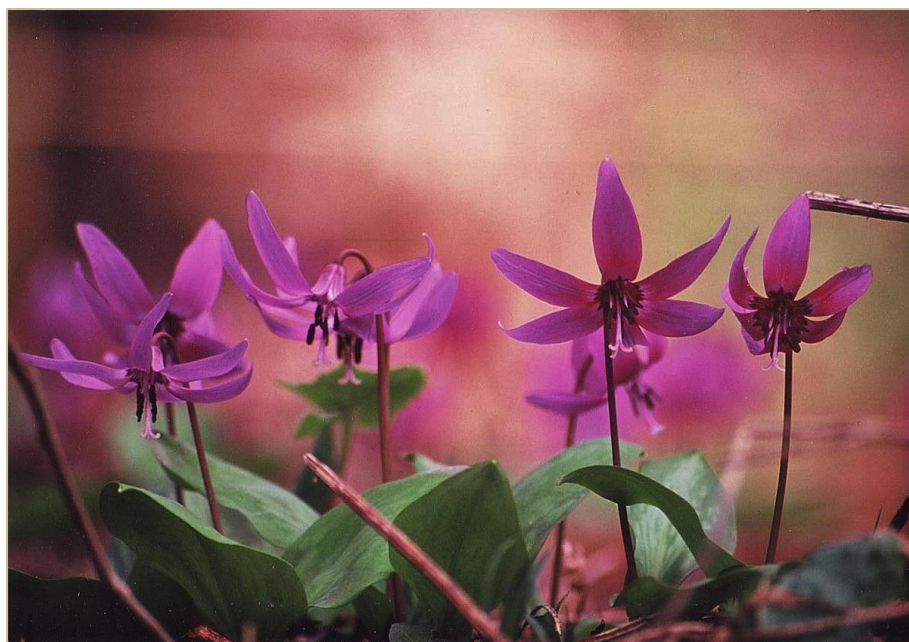
もう一つ、生き活きと元気に続けていくために欠かせないものがある。難しく言えば、会の理念や目的が明確になっていることだ。会の目指す具体的な姿がはっきりしていて、それを全体で共有できていることだ。当会のモットーである「安く、楽しく、安全に、里山からヒマラヤまで」は、まさしくそれを伝えている。

あまりお金を掛けずに、気のおけない仲間で、学習・訓練を怠らず、オールラウンドの山登りを楽しむ。いつも受け入れてくれる山岳自然を大切にする。運営委員会の専門部と会員有志の志向別グループは、その実現のためにある。例会後、専門部会が盛り上がり、「あかげら」に山行案内があふれる。これが会の元気を測るバロメーターだ。

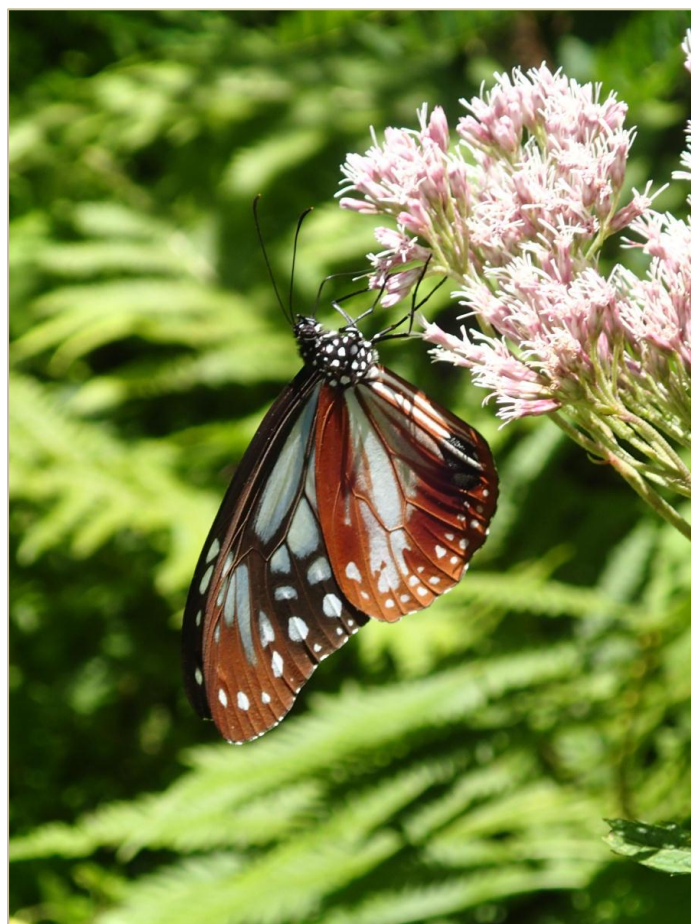
近年、山で若者のグループやカップルを多く見かける。年齢問わず単独行も多い。インターネットでは、登山の情報交流サイトが世代を越えて盛況だ。情報や仲間を得る場でもあった山岳会は、その目的では存在意義が薄れつつあるように思う。一方で、ネットで当会を知り会員になるケースも増えている。

山岳会を取り巻く環境は大きく変化している。その中で、新入会員から会への期待を読み取ってみると、ネットでは得られない実践に裏打ちされた生きた技術や知識であり、未知の登山世界へチャレンジではないだろうか。そんな期待に応え仲間を増やすためにも、ネットでの情報発信と収集は不可欠だ。山岳会新時代に向けて、会の将来像を真剣に考えるときが来ている。これも未知への挑戦。無から有を生む。こんな楽しいことはないだろう。

山友 写真ギャラリー



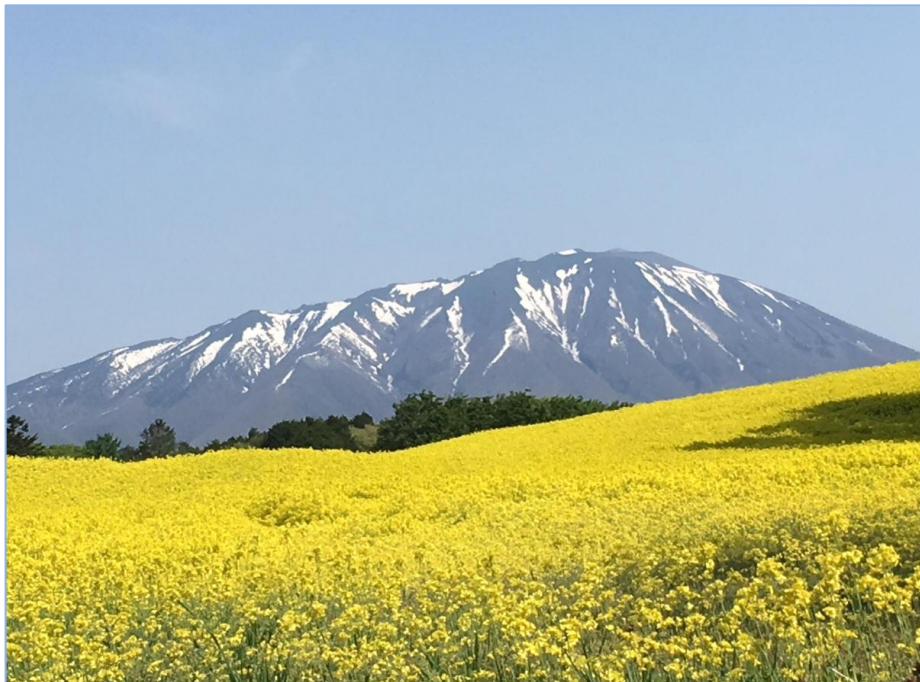
「カタクリ」 千田 勝則



「Summer」 高橋 英里子



「八幡平」 谷原 伸一



「岩手山」 小原 耕

専門部報告

● 山行管理委員会

報告者 No.2 渡邊 健治

① 山行管理の取組

山行管理の方法については、昨年からメーリングリストを活用した受付システムを作り、山行管理委員が全員で計画書を共有して指導・助言等を行ってきました。緊急連絡先の交代ルールを明確にするなど、必要な見直しを行いながら会全体にルールの定着を図ってきました。

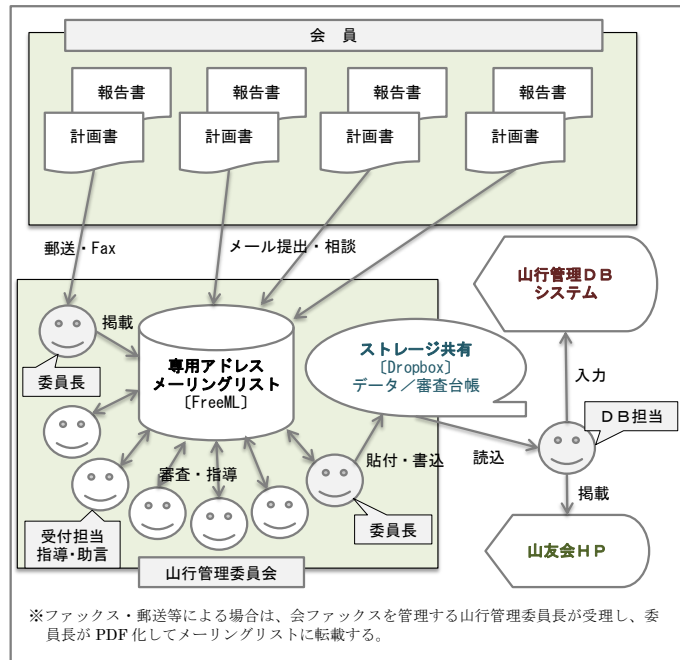
② 山行活動の状況

昨年11月から1年間の山行活動は、実施件数356件で昨年(447件)を下回りました。内訳は、個人山行が246件で昨年(336件)から大きく減少し、会山行は、110件で昨年(111件)並みでした。

報告書の提出率は、ここ2年6割を切る状況が続いています。

③ 事故・ヒヤリハットの状況

山行管理システムのイメージ図



盛岡山友会／事故・ヒヤリハット一覧表【2016.11以降】

2017/10/31現在

年度	山行期間	山域	ルート	参加者数	企画主体	事故等の有無	事故等の当事者	発生場所	事故等の分類	怪我の状況	事故等の概要	対応の状況	原因と反省
2016	11月13日	岩手山	柳沢コース	22	会	事故	男(63才)	下り1合目下	転倒	胸打撲	両手ストックで下山中、木の根にストックと足を引っ掛け前めに転倒する。	ストックを持ったまま胸を守ろうとして、胸を強打するも歩行に支障なく自力で下山。翌日も胸の痛みあり病院で検査の結果打撲と診断。	話に夢中になり足元の注意が疎忽になっていたこと。加えて、加齢に伴う反射神経の衰えもあると思われる。
2016	2月18日～2月19日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	5	会	ヒヤリ・ハット	男(61才)	帰路	凍傷	頬に軽度の凍傷	帰路4時間、風雪にさらされ続け、頬にもやけを負う。	特になし。	顔を風雪から保護する対応が取られていなかったこと。
2017	7月2日	岩手山	柳沢コース	16	会	ヒヤリ・ハット	女(61才)	二合目付近	その他	体調不良	歩きはじめから頭が重く、チームのペースに付いて行けないうえ、二合目付近で引き返す。	B班のCLが登山口まで付き添い無事下山する。	原因は、体力不足と体調不良が重なったものと思われる。日常の体力づくりと健康管理を怠らないこと。
2017	9月3日	岩手山	上坊コース	3	会	ヒヤリ・ハット	女(45才)	ツルハシ分岐の上	脚痙攣	足指のつり	右足を滑らした拍子に足指がつり歩行困難になったが、整体マッサージ等を施し回復する。	靴を脱ぎ、ストレッチと整体マッサージにサロバンスプレーを施し、歩けるまで回復。その後の再発はなし。	歩きはじめのペースが速かったことが考えられる。当日の体調を測るためにも、歩きはじめは意識してゆっくりペースとするべきだった。
2017	9月7日～9月10日	槍ヶ岳	上高地～槍ヶ岳往復	2	個人	ヒヤリ・ハット	不明	徳澤園の乾燥室	装備紛失・破損	なし	登山初日、徳澤園の乾燥室に干していた新品の両合羽のハンクが無くなる。	徳澤園からハンクを借りて山行を継続下山山頂に返す。(本人のハンクは不明のまま)	当日は雨のため乾燥室には多くのカッパ他衣類などが干されており、間違われたと思われる。
2017	9月23日～9月24日	秋田県境	手倉街道～南～P877往復	9	会	ヒヤリ・ハット	女(72才)	手倉街道の下り	転倒	なし	足を溝に取られ転倒し一回転するも怪我なし。	疲れによるものと思われることから改めて注意喚起する。	県境の藪漕ぎによる疲労から注意不足になっていたものと思われる。

昨年11月以降の事故は1件、ヒヤリハットは5件、併せて6件となっており、前年と同様の結果となりました。1件の事故は、木根につまづき転倒し胸を強打したものでした。

④ 安全登山の啓発

山行管理ルールの徹底や安全登山の意識啓発のために、以下の取組を行いました。

- 1月25日 あかぎら1月号...山行報告書の意義と提出促進
- 4月26日 4月例会...山行管理ルールの周知
- 6月28日 あかぎら6月号...山行報告書の書き方(事故・ヒヤリハットとは)
- 7月26日 あかぎら7月号...山行計画書の省略ルール(トレーニング&近隣低山)
- 10月18日 山行リーダー会議(参加15名)...事故・ヒヤリハットの共有、事故防止の意見交換等
- 10月25日 10月例会...冬山に向けた留意点の説明

1. 事務局の業務としては、まず**毎月の運営委員会・例会の運営**がうたわれています。

会運営のために運営委員会で十分協議でき、スムーズに会議が進むように、また、例会では会員に会の内容が良く理解されるように、また会員の要求するミニ講座は何か、運営委員会などで協議しながら満足してもらえるものにしたいと努めています。

大きな仕事に、**会計事務**があります。新特別基金の口数変更や途中退会される方には会費未納がないかなど気を使います。会員の**入・退会時**には全国連盟に報告し会員証の発行や所定の手続きを行います。

登山時報の普及にも力を入れています。変更があると毎月全国連盟に報告し、送られてきたものにシールを貼って例会時に配布します。

また、例会欠席者には、会報その他必要な文書などの**発送**も大事な仕事です。

2. **備品の管理・貸し出し**

3. **その他**

- ① 「あかげら」の原稿作成。 「運営委員会報告」・「今後の日程」・「事務局から」など
- ② 名簿の作成、その他の文書の作成、新入会者への対応
- ③ インターネット・メディアその他からの情報を求めてくる人への対応
- ④ 会場予約・会場費支払い
- ⑤ 例会時の受付業務 その他・・・

事務局長の独り言（・・・中村美栄子）

3年間離れていた事務局長に、またもや戻ってきた古株の事務局長です。この間、大分頭の方も鈍って来たのではないかと恐れています。しかし、この間に、以前には3人でやっていた事務局の仕事も、4人の事務局次長に良く配分された仕事内容になって大変良かったと思っています。とにかく楽しい会を目指して、老骨に鞭打って、ボケかかった脳に喝を入れながら頑張っていきますので、どうぞよろしくをお願いします。

これからも、生き生きとした楽しい会作りのために会員の皆さんよろしくをお願いします。

事務局長 中村 美栄子
次 長 石澤 妙子（主に会計担当）
次 長 小野寺 健一
次 長 小田 嘉洋
次 長 高橋 恵美子

● 教育遭対部

報告者 No.267 中村 敦博、No.279 松田 幸久

登山に必要な知識や技術を学び「安全登山」につながる講座を8回開講しました。1講座は悪天候のため中止になりました。

教育遭対部 講習一覧表

実施日	講座内容	参加人数
2016年 10/5 (水)	冬山入門講座 座学 勤労福祉会館 冬山に入るための留意点、低体温症と凍傷の予防と対策及び冬山の装備の講習	25人
11/13 (日)	冬山入門講座 実技 岩手山 岩手山の4合目～5合目でピッケル・アイゼンの訓練及び3合目付近までの初級者向けの冬山体験	22人
2017年 1/29 (日)	冬山入門講座 実技 鶏頭山 厳冬期の森林限界を超えた冬山訓練及び初級者向けのラッセル訓練	18人
3/12 (日)	雪洞訓練 網張温泉付近 雪洞訓練と固い雪でのピッケル・アイゼン訓練	15人
5/14 (日)	ピッケル・アイゼン訓練 八幡平 17人参加でピッケル・アイゼンの訓練及び滑落停止訓練を行う予定でしたが悪天候で中止	—
7/8 (土) ～9 (日)	ツェルトビバーク訓練 相の沢キャンプ場 日帰り装備でのツェルトビバーク訓練及び足のケガの対応や安全な場所までの搬出方法、ロープワークの訓練	13人
8/20 (日)	岩登り講習会 登山靴使用 川目 岩場で必要な基本的なロープワークと懸垂下降訓練 岩場が濡れていたため、登る訓練は中止	13人
10/29 (日)	救急法・普通救命講習 午前は消防署の方による普通救命講習 午後からサムスプリントでの副木固定や大量出血の止血方法の講習	18人

～ 楽しく学べる講習を目指しています、入会したばかりの方も気軽に参加してください ～



1月 鶏頭山 冬山訓練



7月 ツェルトビバーク訓練 (含搬出訓練)

● 山行企画部

報告者 No.6 千田 勝則、No.234 古川 孝

平成 29 年度の山行企画部の活動は、月 2 回の山行を年度当初に計画し、若干の修正を加えながら毎月実施して来ました。また、志向別グループから出された山行計画を一覧表に作成し、部員の個人山行を企画しました。山行企画部で企画した山行は以下のとおりです。

山行企画部 企画山行一覧表

実施日	山 行	参加人数	内 容
2016 年			
12/18	夫婦岩(572.1m)	3 人	雪の無い山に登る
2017 年			
1/7	兜明神岳(1005m)、岩神山(1103m)	32 人	新年山行、兜山荘で盛大にお雑煮交流
3/19	青麻山(799.5m)	2 人	東北百名山
4/2	室根山(895.4m)	2 人	県南の独立峰
4/9	御駒山(522m)、大士ヶ森(580.3m)	4 人	一足早い春の花
4/23	太田薬師(407.5m)	5 人	早春の眺望とカタクリの花
5/28	徳仙丈山(711.1m)	9 人	全山つつじの山
7/30	源太ヶ岳(1545m)、大深岳(1541.4m)	6 人	お花畑を見に行く
8/20	鳥海山(2236m)	3 人	高山植物を楽しむ
9/3	岩手山(2038m)、姫神山(1123.6m)	37 人	創立記念山行
9/23~24	一切経山(1949m)、磐梯山(1818.6m)	4 人	福島の名山を歩く
10/9	八甲田山(1584.4m)	7 人	絶景の紅葉を見る

山岳会の存在価値は魅力的な山行企画があることです。「あかげら」に載らない山行も多いようですが、個人山行も含めて「あかげら」に掲載して、みんなで魅力ある山行をしませんか。



9 月 磐梯山頂上から猪苗代湖をバックに



10 月 紅葉真っ盛りの八甲田山

● 組織部

報告者 No.416 福山 茂和

従来の組織部の3大イベントは、初級登山教室、オリエンテーション、納山祭でしたが、今年度からオリエンテーション（例年7月に実施していましたが、対象会員が少ないため今年は11月に実施）は事務局の担当としていただきました。

1. 初級登山教室

今までは、机上講習は一日で全ての講習を実施していたが、今年は3日間6/6(火)・6/8(木)・6/13(火)に分けて18時半から利便性の良い盛岡駅前のアイーナにて実施しました。参加者は、女性8名 男性2名の計10名、但し女性1名の方は初回の机上講習受講後に本人都合でキャンセルとなり最終的には9名でした。なお、参加者の年齢は22歳から59歳までで、平均年齢40歳と全体的に若い方の参加でした。また、会員からも2名の方が参加されました。

実技山行1回目6/11(日)の鞍掛山は小雨に降られましたが、受講者8名、スタッフ11名の計19名で、問題なく終了しました。2回目6/18(日)の三ツ石山は天候に恵まれ、受講者10名、スタッフ14名の計24名で行われました。残雪のまだ残る登山道を踏みしめて山頂に到着後、三ツ石山荘で登る途中に採集した姫竹入りのラーメンを食べ全員満足でした。

そして、受講生の内、2名の方が入会されました。



6月 実技山行2回目・三ツ石山 残雪を踏みしめて



6月 三ツ石山 ラーメンを食べて下山前の笑顔

2. 納山祭

納山祭はまだ実施されていないのですが、「山友」用の原稿提出時点で40名の参加と会員数から考えると、少し寂しい状況です。

今年は少し趣向を変えての検討も行ったのですが、参加人員を考えるとやはりホテル等の大広間を借りての実施しかないのが実情です。納山祭自体のマンネリ化を防ぐためにも来年からは各専門部の持ち回りでの担当も考えてみたいです。

● 会報部

報告者 No.372 辰巳 和司

毎月の機関紙「あかげら」及び年会報「山友」の発行を例年通り行いました。

○ 「あかげら」

表紙は、毎月、会員に写真ではない自筆のものをお願いしていますが、今年度は下表の 12 人の方に年 1 回で描いていただきました。添えられている“表紙の言葉”もそれぞれ興味ある短文でした。また、巻頭言の縦走路は、年頭 1 月の会長執筆を除く 2～12 月を縦走路未執筆の会員にお願いして書いていただきました。来年も同様の形で続けていく予定ですので、今後ともよろしくお願ひします。

平成 29 年度 表紙、縦走路一覧表 (12 月以降予定)

年月	表紙制作者、表紙の言葉		縦走路執筆者、表題	
H28 年 4 月	No.267 石川享子	雲上の絶景	No.461 中村篤	花粉症は治ります
5 月	No.196 工藤敬子	衣笠草	No.125 中根和子	チャレンジ精神
6 月	No.301 久保加世子	鳥海山	No.441 萩谷義久	交差点と出会い
7 月	No.161 田中弘美	種差海岸	No.459 三澤信裕	高松公園・北山地帯
8 月	No.19 中村美栄子	ドクダミ	No.417 村田眞司	岩手いいところ
9 月	No.459 三澤信裕	初秋の安達太良山	No.310 菊地広子	旅日記 柳生への道
10 月	No.268 熊谷久美子	岩手山	No.85 山本光子	いままでのこと
11 月	No.461 中村篤	使者・鹿	No.204 村上明枝	私と盛岡山友会
12 月	No.382 三浦明夫	—	No.369 斉藤良三	—
H29 年 1 月	No.460 柚澤瑠実子	—	No.2 渡邊会長(年頭)	—
2 月	No.288 級木信子	—	No.178 山田純	—
3 月	No.267 中村数博	—	No.8 佐々木テイ子	—

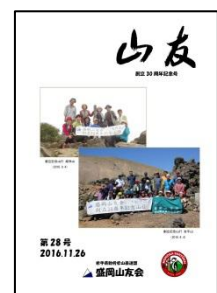
○ 「山友」

昨年が会創立 30 周年記念の年となり、「山友 第 28 号 創立 30 周年記念号」として発行しました。会報部や事務局で作業を分担しながらなんとか 11 月 26 日の 30 周年記念式典に間に合わせる事ができました。原稿、編集作業へのたくさんの方の御協力ありがとうございました。

○ その他

現在、会報部員は 12 人と少ない人数です。年度当初、負担が個人に集中しないよう運営委員（部長、副部長）、県連代議員、例会司会、各作業等を 10 分割程度として年ごとの輪番とする事を話し合い取り組みました。いつ運営委員になるかや年ごとの担当内容が分かり、輪番の方が予定がたて易いという声も聞かれます。

会報部の作業は毎月になりますが、一人で行っている年 12 回の作業も二人で行えば年 6 回の半分になります。6/3(土)には勤労福祉会館で、「あかげら全体編集」と「しおり付け」の勉強会を行い、しおり付けは現在 4 人で回す事ができるようになりました。あかげらの全体編集は山友も含め依然一人をお願いしている状況で、次年の課題となります。年齢を重ねると共に皆それぞれ社会や家族の事等で負担を持っているように思われます。会自体についても会員の負担の少ない組織作りや作業の省略化が望まれるように感じます。



● 自然保護部

報告者 No.433 岡 義博

ふるさとの山岳自然を守るために私達ができることとして今年度も下記の活動を行いました。今後も自然保護活動を継続していきます。

1. 自然観察に関する調査	
H29. 1. 8	冬の自然観察で鶏頭山の麓で動物の足跡の観察を行いました。登山道に縦横無尽のシカの足跡があった。
7.13	春の自然観察で鶏頭山の七折ノ滝を下見した。シカの食害がみられた。
7.22	七折ノ滝は雨模様で鑪山に変更してシカの観察をした、足跡と通り道が出来ていた。
10. 7	秋の自然観察で七折ノ滝にチャレンジするも雨で中止した。
2. 岩手県勤労者山岳連盟 自然保護集会参加	
H29. 5.20	八幡平国立公園特別地域の大松倉山の原生的自然の場所に地熱発電所計画で生態系が崩れようとしている等、報告を受けた。(大松倉山からの雪稜は 1.5 km 続き標高差 450m の風景)
3. 清掃登山	
H29. 7. 2	岩手山：①参加人員 24 名 ②ゴミの量 7.6 kg (天候が悪く不動平小屋周辺の清掃を行う) 姫神山：①参加人員 10 名 ② ゴミの量 少量
9. 3	創立記念山行に合わせ岩手山・奥の宮にて清掃活動を実施した。
4. 空中放射線量の調査	
H29.4.30	姫神山で測定
8.27	岩手山で測定
8.28	早池峰山で測定
5. 自然保護活動	
H29. 7.15	①小田越登山口でグリーンボランティア携帯トイレの呼びかけをした。 ②早池峰山頂上での移入種駆除。
6. 定点観測	
H29. 7. 2	姫神山：一本杉で定点観測 4ヶ所を確認



1月 冬の自然観察 ニセ鶏頭



7月 清掃登山 岩手山不動小屋

志向別山行グループからの活動報告

グループ設立順

◆ 心のスケッチ山行クラブ (1999年～)

代表 No.196 工藤 敬子

心のスケッチ山行クラブは、毎年春から秋まで暖かい時期のみ活動しています。主に、花等の自然に合わせて計画し、スケッチや写真撮影等楽しんでいきます。

活動期間を例年5月から10月までとし年間6回計画していますが、今年は雨天により2回中止となりました。例年であれば見られたはずの花に会えない等、季節が例年と異なるような気がしました。

【 山行一覧 】

山行日	山名・コース	参加人数
H29年5月27日(土)	田代平	中止
6月14日(水)	茶臼岳(1578.3 m) お目当てのキヌガサ草が無く、竹の子採りに変更	5名
7月18日(火)	岩手山(2038 m) ガスで眺望が無く、スケッチを中止して八合目避難小屋から雨の中を下山	4名
8月31日(木)	又一滝 (またいちのたき) …薬師岳の南側 稲荷穴も見学しました	4名
9月14日(木)	八幡平(1613.3 m)	中止
10月12日(木)	七時雨山(1060 m) 初めてのルートで、秋の恵みをたくさんいただきました	4名



8月 又一の滝



又一の滝スケッチ (K.K)

◆ グループ銀世界 (1999年～)

代表 No.234 古川 孝

- グループ銀世界はスキーで山を楽しむグループです。山スキー、テレマークスキーでゲレンデを越えて真っ白な世界で滑走します。
- 2016-2017 シーズンは、シーズン当初は雪が少なく、また厳冬期は天候に恵まれず、なかなか思うような山行ができませんでしたが、シーズン合計 33 回、山行参加者延べ 178 人とまずまずのシーズンとなりました。
- 個別の山行では、久しぶりの安達太良・宮城蔵王の泊り山行や須賀倉山・鷲ヶ森山など新たなルートの開拓もしました。
- 今後も事故の無いように、訓練も実施してレベルアップを図りながら楽しみたいと思います。



グループ銀世界山行実績 2016-2017 シーズン

日程			山行実績	参加者	人数
12月	25	日	網張スキー訓練	古川・山田(潔)・舟越・三浦(良)・大峠・木村三・柚澤・大森・久保・三浦(明)・徳永・松田(幸、希)・小原・小田・木村一	16
1月	7	土	新年兜明神・岩神山	古川・渡邊・山田(潔)・久保・石川・府金・大峠・三浦(明)・小田・福山・大森・小原・舟越・柚	14
	8	日	姥倉・鎌倉森	大峠・松田(幸、希)・石川・大森・舟越・小原・三浦(良)	8
	8	日	八幡平	久保	1
	14	土	三ツ石山	山田(潔)・古川・柚澤・石川・久保・舟越・大森・木村一・松田(希)・藤本・小原・渡邊	12
	15	日	三ツ石山	大峠・村田	2
	28	土	下倉～中倉	大峠・山田(潔)・古川・大森・小泉・村田・柚澤	7
2月	4	土	森吉山	古川・柚澤・石川・三浦(明)・徳永・大峠・村田・木村一・木村三	9
	5	日	小松倉	大峠・古川・石川・木村一・村田・徳永・柚澤	7
	18	土	八幡平	山田(潔)・石川・木村三・柚澤・村田	5
	19	日			
	18	土	松川・三ツ石山・松川大橋	三浦(良)・木村一・大峠・三浦(明)・松田(幸、希)	6
	19	日	貝吹岳	大峠・木村一・三浦(明)・	3
	25	土	安達太良・宮城蔵王	大峠・山田(潔)・徳永・石川・柚澤・木村三・久保・小泉・村田	9
	26	日			
28	火	森吉山	福山	1	
3月	4	土	栗駒山	三浦(良)・三浦(明)・徳永・古川・大峠・木村・石川・柚澤・小泉	9
	5	日	須賀倉岳	石川・三浦(明)・府金・山田(潔)・久保・大峠・小原・松田(幸、希)	9
	5	日	八幡平	古川・村田	2
	11	土	黒倉山	石川・古川・山田(潔)	3
	11	土	三ツ石山	福山	1
	18	土	姥倉～松川	三浦(明)・石川・山田(潔)・古川・大峠・村田・小原	7
	20	月	乳頭～秋田駒	大峠・山田(潔)・徳永・石川・小原・三浦(明)・村田・柚澤	8
	25	土	夏油～鷺が森山	古川・舟越・柚澤・山田(潔)・村田	5
	25	土	源太ヶ岳	久保	1
4月	1	土	岩手山東尾根	久保・三浦(良)・柚澤・大峠・村田・小原	6
	2	日	三ツ石山	福山	1
	4	火	中倉山	福山	1
	8	土	焼石岳	三浦(明)・古川・舟越・高橋(豊)・村田・大峠・松田(幸、希)	8
	9	日	月山	久保	1
	16	日	湯殿山	久保	1
	16	日	桧枝岐三岩岳	木村一	1
	22	土	八幡平	山田(潔)・小原・久保・武田(秀)・石川・柚澤・高橋(英)	7
	30	日	秋田駒ヶ岳	古川・山田(潔)・三浦(明)・小原・舟越・小泉・徳永	7

6月1日(木) 納会 上海倶楽部 参加者10人

◆ 岩手の名山歩こうかい (1999年～)

代表 No.268 熊谷 久美子

岩手の山々を中心に、山行を実施しています。四季折々の自然や花々を楽しみながら、心と体のリフレッシュを目的に活動しています。今年度も月一回の山行を計画して、季節ごとの山の魅力を満喫しました。これからも県内の魅力ある山、行ったことの無い山等の企画に取り組みます。

【 山行一覧 】

山行日		山名・コース		参加人数
H28年	11. 3(木・祝)	女神山(955.8m)	尾根コース～県境コース	中止
	12. 4(日)	氷上山(874.7m)	玉山高原コース	8人
H29年	1.15(日)	黒森山(837.3m)	深沢コース	5人
	2.19(日)	姫神山(1123.6m)	小姫神コース	14人
	3.26(日)	貝吹岳(992.4m)	仙岩トンネルコース	10人
	4.23(日)	八方山(716.6m)	長根崎コース	4人
	5.28(日)	徳仙丈山(710m) 本吉町口、大森山(760m)	林道浮野線口	9人
	6. 4(日)	岩手山(2038.0m)	柳沢コース	中止
	7.23(日)	秋田駒ヶ岳(1637.4m)	国見コース	中止
	8. 6(日)	南本内岳(1486m)	中沼コース	10人
	9.23(土・祝)	源太ヶ岳(1545m)、三ツ石山(1466m)	松川温泉周回	3人
	10. 8(日)	太平山(1170.4m)	宝蔵コース～旭又コース	7人

【 1年間の参加者 】

No.6 千田勝則、No.19 中村美栄子、No.70 遠藤千鈴子、No.128 川村雅子、No.140 石澤妙子
 No.150 襲地則子、No.196 工藤敬子、No.204 村上明枝、No.234 古川孝、No.250 日比野保子
 No.268 熊谷久美子、No.281 北田絹恵、No.288 級木信子、No.307 加藤桂子、No.310 菊地広子
 No.364 吉田菊男、No.365 府金志摩子、No.370 本間典、No.423 小川優子、No.458 舟越茂雄
 No.459 三澤信裕、No.472 小野由理



12月 氷上山山頂 (祝 千田さん 30周年も)



8月 南本内岳 姥石平のお花畑で

◆ 県境の風 (2007年～)

代表 No.385 小田 嘉洋

岩手県と他3県の県境・総延長487kmを踏破しようと壮大な目標を持って平成19年にスタートしました。一昨年は“30周年までには終わらせたい”と願っておりましたが、叶わず、昨年グループの忘年会で“残り25kmを来年こそは”と思い春を待ちました。しかし12km程残りました。来年こそは安全に皆で踏破したいと思っています

【1年間の活動報告】・・・合計30回、距離13km、延べ217人

No	山行日	実施区間	記事	距離(km)	参加人数	受付	CL
89	H28.9/10	四角岳～大倉森下部	中村篤初参加	1.8	11	高橋	本間
90	9/17	四角岳～頂上直下300m	四角岳頂上と3県の県境を勘違い 最高に藪が強い	0.3	6	小田	本間
91	9/24	黒倉沢～大倉森	2週敗退後目先変更	0.6	9	高橋	本間
92	10/8	中沢林道～大倉森	中止	—	10	小田	本間
93	10/16	黒倉沢～大倉森	四角・大倉で初めて計画通り	0.8	10	小田	本間
94	10/22	中沢林道～四角岳頂上	9/17勘違いはなんだった	1.2	13	小田	本間
95	11/5	岩手側～中沢林道P802	19日分県境まで下見	—	6	小田	小田
96	11/12	黒倉沢～大倉森 ～14年度終了点	15人参加で2班構成	0.8	15	小田	小田
97	11/19	岩手側～中沢林道P802	青森県境完了・夜懇親会	1.4	13	小田	小田
98	12/11	須賀倉山(紫波町最高峰)	冬・藪山トレーニング 参加最多	—	19	小田	小田/本間
99	12/17	西東根山	冬・藪山トレーニング(登山道無)	—	6	中村	中村
100	H29.1/8	箱が森	雪山トレーニング	—	7	高橋	小田
101	2/11	鬼ヶ瀬山	雪山トレーニング	—	10	小田	小田
102	2/25	毛無森(盛岡市最高峰)	冬・藪山トレーニング(登山道無)	—	14	中村	中村/本間
103	4/2	西東根山リベンジ	冬・藪山トレーニング	—	13	中村	中村
104	4/8～9	下東山北(P877)～大森 TN南	県境まで到達できず	—	10	辰巳	辰巳
105	4/23	五葉山	登山道をトレーニング	—	6	春美	加藤
106	5/3～4	北沢林道口 桑原岳～大 薊岳	雪崩の巣を進む(P1122)	1.8	7	本間	本間
107	5/6～7	北沢林道～桑原岳～天江口	中止	—	—	—	—
108	5/7	毛無森(盛岡市最高峰) リベンジ	折会沢ルートに変更トレーニング	—	8	本間	本間

No	山行日	実施区間	記事	距離 (km)	参加 人数	受付	CL
109	5/28	大森 TN 南～下東山北 P877	仙北道(手倉越) 発見	1.0	—	小田	小田
110	6/9～10	大森 TN 南～下東山北 P877	中止	—	—	—	—
111	6/24～25	大森 TN 南～下東山北 P877	P877 手前 1.7km まで	4.1	5	小田	小田
112	7/15～16	大森 TN 南～下東山北 P877	中止	—	—	—	—
113	8/ 5	東山 7 合目～桑原岳	P1115 まで	1.2	4	本間	本間
114	8/5～6	大森 TN 南～下東山北 P877	中止	—	—	—	—
115	8/27	342 号～大薊・手倉林道	下見	—	3	小田	小田
116	9/ 9	342 号～大薊往復下見	県境手前まで	—	4	本間	本間
117	9/23～24	大森 TN 南～下東山北 P877	前泊雨のため藪を楽しむ	—	8	本間	本間
118	10/21	仙北道(手倉街道)の大胡 桃	トレーニング 中止	—	—	—	—

県境未踏破部分は3ヶ所

- ① H28年6/25 到達地点P914m～P877m 約 1.70 km
- ② H28年8/5 到達地点P1115m～桑原岳 約 7.45 km
- ③ 上鉢山南 P1122m～大薊山 約 3.25 km

の合計「約 12.4 km」となったがいずれも難所である。



10 月 四角岳 四角岳以南と東側の太平洋
までが繋がる



4 月 東山 スノーブリッジを使って渡渉

◆ ウィークディクラブ (2010年～)

代表 No.196 工藤 敬子

ウィークディクラブは、特に曜日を限定せず、主に里山を楽しんでいます。

今年度は、雨天により 2 回中止となりました。昨年 11 月に安比岳～黒谷地湿原～茶臼岳の周回コースを行いました。時ならず雪に阻まれて安比岳で撤退したこともありました。今年 4 月の残雪期の岩手山では天候に恵まれ頂上まで行くことができ楽しみました。

【 山行一覧 】

山行日		山名・コース		参加人数
H28 年	10 月 25 日(火)	鶏頭山(1445.1m)	冬泊まり山行のための目印テープ付け	7 名
	11 月 23 日(水)	安比岳(1493m)	30 cmほどの思わぬ積雪にびっくり!	7 名
	12 月 13 日(火)	箱ヶ森(865.5m)	登山道は薄らとした雪、穏やかな一日	5 名
H29 年	1 月 12 日(木)	赤林山(855m)	—	中止
	2 月 4 日(月)	赤林山(855m)	深い雪のラッセル、下山は楽々	5 名
	3 月 16 日(木)	鎌倉森(1317m)	雪深くワカン、犬倉山を周回	4 名
	4 月 24 日(木)	岩手山(2038m)	三合目からアイゼン、頂上の標識は見事なエビの尻尾	6 名
	5 月 11 日(木)	赤林山(855m)	シラネアオイ、イカリ草等山野草咲く	6 名
	6 月 29 日(木)	六角牛山(1294.3m)	温かく風も無いさわやかな山頂で、おしゃべりに花が咲く	4 名
	7 月 13 日(木)	焼山(1366.1m)	ベコ谷地はワタスゲで真白、焼山山荘解体中	4 名
	9 月 28 日(木)	秋田駒ヶ岳(1637.4m)	—	中止
	10 月 26 日(木)	女神山(955.8m)	七つの滝あり、紅葉がすばらしかった	8 名



10 月 女神山紅葉 降る滝(落差 50m)



10 月 女神山 白糸の滝

◆ 四季の山 (2013年～)

代表 No.250 日比野 保子

「四季の山」のグループ(冬の星座2005～2012年 から移行)は、日帰り山行や小屋泊まり、テント泊など多様な山行を行ってきました。岩手県内の山を中心に、東北の山にも行きました。毎月一回の山行を計画して、四季折々の自然にふれ山の魅力を満喫しました。

1. 一年間のまとめ

山行日	山名・コース	コメント	参加人数
2016年 10月30日	安家森(1239.1m)～遠別岳(1235m)～平庭岳(1059.5m)	晩秋の草原歩き	8人
11月20日	岩手山(2038m) 柳沢コース	風雨で6合目まで	5人
12月23～24日	五葉山(1341.3m) 赤坂コース	参加者少なく中止	—
2017年 1月8～9日	鶏頭山(1445.1m) 岳ピストン	三度目の挑戦で山頂へ	5人
2月11～12日	赤林山(855m) 矢巾温泉コース	テント泊	3人
3月19～20日	三ツ石山(1466m) 網張スキー場	冬コース、小屋泊	6人
4月16日	岩手山(2038m) 6合目まで	ピッケル、アイゼン訓練	4人
5月3～4日	鳥海山(2236m) 祓川コース	駐車場にテント泊	7人
6月10日	五葉山(1341.3m) 黒岩コース	クリン草が見事	4人
6月25日	早池峰縦走 早池峰山(1913.6m)～鶏頭山(1445.1m)	ロングコース	6人
8月11日	「山の日」の会山行参加	企画なく中止	—
9月16日	神室連峰 虎毛山(1432.9m) 赤倉沢コース	山頂に湿原	7人
10月15日	安比岳(1493m)～茶臼岳(1578.3m) 周回コース	天候に恵まれリベンジ	8人

2. その他

新しい参加者が少ないのが悩みです。テント泊の経験を伝えていくような山行が出来たら良いと考えています、これからも県内外の魅力ある山の企画に取り組み参加者を増やしたいと思います。



1月 鶏頭山 三度目の挑戦は快晴の山頂



6月 早池峰山～鶏頭山縦走

◆ グループゆうゆう (2013年～)

代表 No.433 岡 義博

グループ“ゆうゆう”は、月1回の山行だけではなく下山後の楽しみも探しながら活動をしております。これから山を始めたい方もベテランの方も是非ご参加おまちしております。

【 山行一覧 】

山行日	山名・コース	参加人数	お楽しみ
H28.11.5	八方山(716.6m)	—	雨で中止
12月	—	—	山行休み
H29.1.14	姫神山(1123.8m)	5人	城内から新雪を下山する。
2.17	鞍掛山(897.1m)	—	中止
3.17	東根山(928.4m)	5人	展望のよい山頂は吹きだまり、下山後は温泉で暖まる。
4.16	八方山(716.6m)	9人	昨年から三回目の山行で残雪を登り、下山後は温泉とアイスクリーム。
5.15	七時雨山(1060m)	—	雨で中止
6.17	三ツ石山(1466m)	4人	リフトは今年の初日運航にのり、帰りは温泉。
7.4	八幡平(1613.3m) 安比岳(1493m)	—	雨で中止
8.20	男助山(758m)	5人	急登を登り、マムシに挨拶、下山後は温泉で昼食。
9.17	岩神山(1103m)	5人	台風18号接近中の山行。早く家に帰らなければ！ 楽しみ無し
10.15	女神山(955.8m)	7人	雄大な名瀑の滝を見て、温泉で体を温める。



4月 残雪の八方山山頂



10月 女神山名瀑・降る滝

◆ 盛友ボルダリング倶楽部 (2017年～)

代表 No.382 三浦 明夫、No.433 岡 義博

ボルダリングは別名スポーツクライミングで設定された人工のホールドのルートに登っていくものです。屋内で行い高さが4mでロープを使用しないで登攀するフリーと高さが15m、ロープでバックアップ(確保)を行い登攀するリードがあります(高さが15m以下のものもあります)。

今の所盛岡山友会ではフリーを行っています。

効果としては、

1. 筋力アップが有ります、自分の体重を引き上げるので、自らの体重を利用した筋トレになりますし、楽しみながらアップすることが可能です。
2. 身体をひねったり、足を引き上げたり、手を伸ばしたりしますので身体の可動域が大きくなります。
3. 壁に張り付き登攀するので、身体の使い方や手の使い方が、山行の急斜面の登りの参考になると思います。
4. あるルートを登れたときは感動しますし、できなくても少しずつ進歩は感じ、今日できなくても次回に挑戦し一手だけでも進めればうれしいものです。
5. ホールドを掴むので指先の強さを徐々に感じる事が出来ます。

活動状況 (県営運動公園 ボルダリング場)

年月	延べ日数	参加した人 (複数回参加)
H29年5月	5日間	10人 : No.382 三浦、No.196 工藤、No.307 加藤、No.250 日比野 No.252 高橋(恵)、No.268 熊谷、No.455 大倉、No.433 岡
6月	5日間	11人 : 三浦、工藤、加藤、日比野、高橋(恵)、熊谷、岡
7月	5日間	11人 : 三浦、工藤、加藤、日比野、高橋(恵)、熊谷、岡
8月	6日間	14人 : 三浦、工藤、加藤、日比野、熊谷、岡
9月	3日間	9人 : 工藤、加藤、日比野、熊谷、No.288 級木、岡
10月	4日間	10人 : 工藤、加藤、熊谷、No.373 高橋(陽)、岡



オーバーハングに挑戦 K.K



コーナーを攀じる Y.T

過去1年の山行実績一覧表<会山行>

2016年11月～2017年10月

1/5

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
1	11月5日	八方山(716.6m)	長根崎口～山頂往復	L太田代・S三澤・石原・高橋(恵)・吉田(成)・小川(優)・岡(義)	7	会
2	11月5日	青森県境	中沢林道～四角岳周辺	L小田(嘉)・S中村(数)・S中村(篤)・S小原(耕)・高橋(陽)・小田(春)	6	会
3	11月12日	青森県境	黒倉沢林道～大倉森～2014年終了点(往復)	L小田(嘉)・S中村(数)・S本間(典)・工藤(敬)・日比野・松田(幸)・北田・級木・松田(希)・加藤(桂)・府金(志)・高橋(陽)・小田(春)・小原・中村(篤)	15	会
4	11月13日	岩手山	柳沢コース	【A班】L松田(幸)・S木村(一)・S石川・中村(美)・石原・野中・加藤(桂)・小野寺・府金(志)・高橋(陽)・小原・中村(篤)・小田(春) 【B班】L中村(数)・S渡邊(健)・高橋(恵)・太田代・吉田(成)・小田裕・大倉・三戸・大森	22	会
5	11月19日	青森県境	中沢林道～県境～P790～P802～中沢林道(車ダボ地)	L小田(春)・S中村(数)・S大倉・工藤(敬)・日比野・北田・級木・加藤(桂)・石川・高橋(陽)・小田(春)・小原・中村(篤)	13	会
6	11月20日	岩手山	柳沢コース	L本間(典)・S日比野・石澤・工藤(敬)・舟越	5	会
7	11月23日	安比岳、茶臼岳	赤川治山ダム口～安比岳～黒谷地湿原～茶臼岳～治山ダム口	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・石澤・日比野・熊谷(久)・級木	7	会
8	12月4日	氷上山	玉山高原センター～山頂往復	L千田(勝)・S熊谷(久)・川村(雅)・日比野・級木・加藤(桂)・吉田(菊)・三澤	8	会
9	12月10日	東根山	ラ・フランスロ～東根山～縦走路往復	L中村(美)・S山崎(祐)・阿部(好)・北田・柚澤	5	会
10	12月11日	須賀倉山	雫石町大村～山頂往復	【A班】L本間(典)・S中村(数)・S松田(幸)・松田(希)・高橋(陽)・小原(耕)・中村(篤)・大倉 【B班】L小田(嘉)・工藤(敬)・日比野・熊谷(久)・北田・級木・加藤(桂)・石川・府金(志)・小田(春)・舟越	19	会
11	12月13日	箱が森	猪去沢周回コース(右回り)	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・阿部(好)・北田	5	会
12	12月18日	夫婦岩	丸森登山口～夫婦岩往復	L千田(勝)・府金(志)・小野(由)	3	会
13	1月7日	兜明神岳・岩神山	ウォーキングセンター～兜明神～岩神山往復	L古川・S山田(潔)・S三浦(明)・渡邊(健)・久保・石川・府金(志)・大峠・小田(嘉)・大森・小原・舟越・柚澤	13	会
14	1月7日	兜明神岳・岩神山	ウォーキングセンター～兜明神～岩神山	【A班】L中村(数)・S松田(幸)・松田(希)・太田代・三澤・中村(篤)・小野(由) 【B班】高橋(恵)・高橋(陽)・吉田(成)・小田(春)・岡(義) 【C班】L加藤(桂)・S中村(美)・石澤・阿部(好)・日比野・大倉	19	会
15	1月8日	姥倉・鎌倉森	網張スキー場～姥倉～犬倉～鎌倉森～温泉館	L大峠・S三浦(良)・S松田(幸)・松田(希)・石川・舟越・大森・小原	8	会
16	1月8日～1月9日	鶏頭山	岳コース	L中村(美)・S級木・工藤(敬)・日比野・熊谷(久)	5	会
17	1月14日	姫神山(1,123.8m)	城内コース	L岡(義)・S山崎(祐)・高橋(陽)・吉田(成)・小田(春)	5	会
18	1月14日～1月15日	三ツ石山	網張スキー場～三ツ石山往復	L山田(潔)・S古川・S木村(一)・石川・府金(志)・舟越・大森・柚澤・久保・松田(希)・渡邊(健)・小原(耕)	12	会
19	1月15日	黒森山(837.3m)	深沢コース	L熊谷(久)・S工藤(敬)・日比野・級木・加藤(桂)	5	会
20	1月28日	下倉山・中倉山	下倉スキー場～中倉山往復	L大峠・S古川・S山田(潔)・大森・柚澤・舟越・小泉・村田	8	会
21	1月29日	鶏頭山	岳コース	【A班】L松田(幸)・S木村(一)・遠藤(千)・工藤(敬)・岡(義)・小原(耕)・中村(篤)・松田(希) 【B班】L三浦(明)・S中村(数)・高橋(恵)・加藤(桂)・太田代・高橋(陽)・小田(嘉)・小田(春)・大森・大倉	18	会

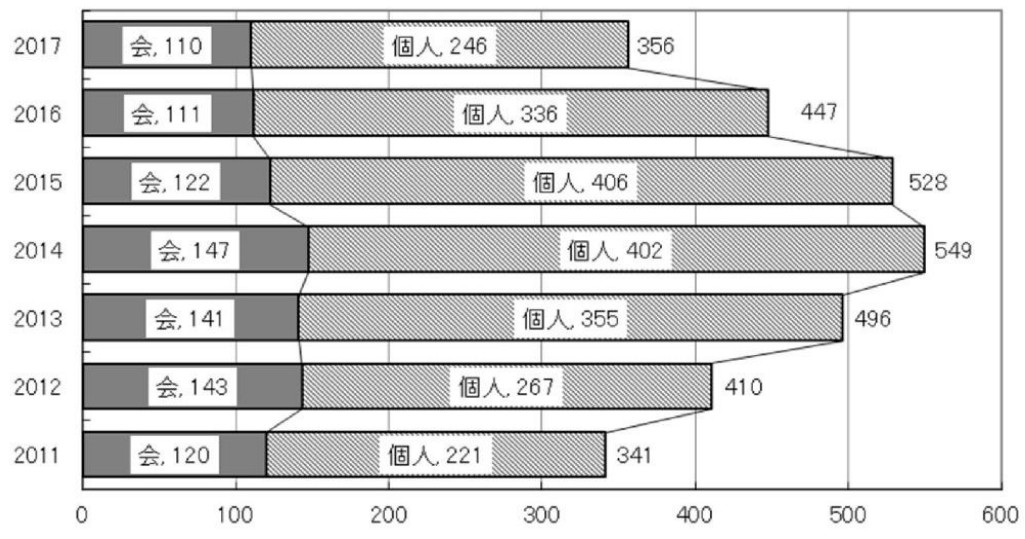
No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
22	2月4日	赤林山	キャンプ場コース	L工藤(敬)・S中村(美)・北田・加藤(桂)・本間(典)	5	会
23	2月4日	森吉山	阿仁スキー場～山頂往復	L古川・S三浦(明)・石川・大峠・柚澤・徳永・木村(一)・村田	8	会
24	2月5日	小松倉山	網張スキー場～小松倉山～奥産道～スキー場	L大峠・S古川・S石川・村田・木村(一)・徳永・柚澤・山田(潔)	8	会
25	2月11日	乙部三山(鬼ヶ瀬山)	一盃森～左回り周回	L小田(嘉)・S中村(敦)・高橋(恵)・加藤(桂)・太田代・本間(典)・高橋(陽)・中村(篤)・大倉・小田(春)	10	会
26	2月11日～2月12日	赤林山(855m)	矢巾温泉コース	L日比野・S熊谷(久)・工藤(敬)	3	会
27	2月14日	太田薬師	参道口～太田薬師～猪去沢林道～上猪去	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・北田	4	会
28	2月18日	松川周辺(三ツ石山)	松川温泉～三ツ石山～P1448～奥産道(松川大橋)	L木村(一)・S三浦(良)・大峠・三浦(明)・松田(希)・松田(幸)	6	会
29	2月18日～2月19日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	L山田(潔)・S石川・S村田・柚澤・木村(三) [会員外]2名	5	会
30	2月19日	姫神山	場内口～積雪期限定コース	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・遠藤(千)・新田・中根・石澤・日比野・熊谷(久)・北田・級木・加藤(桂)・小田(春)・小田(嘉)	14	会
31	2月19日	貝吹岳	仙岩トンネル口～山頂往復	L大峠・S木村(一)・三浦(明)	3	会
32	2月25日	毛無森	岳～七俺の滝手前～毛無森往復	【A班】L中村(敦)・S中根・高橋(陽)・中村(篤)・級木・大蔵・中村(美) 【B班】L本間(典)・S工藤(敬)・熊谷(久)・日比野・加藤(桂)・小田(嘉)・小田(春)	14	会
33	2月25日～2月26日	安達太良山、蔵王山(刈田岳)	安達太良高原スキー場コース、すみかわスノーパークコース	L大峠・S山田・S小泉・久保・村田・小原・柚澤・石川・徳永・木村(三) [会員外]1名	10	会
34	3月4日	栗駒山	いこいの村～山頂往復	L木村(一)・S三浦(良)・徳永・石川・三浦(明)・柚澤・村田・大峠・小泉	9	会
35	3月5日	須賀倉山	雫石町大村口～山頂往復	L松田(希)・S松田(幸)・S石川・山田(潔)・大峠・三浦(明)・久保・福山(茂)	8	会
36	3月11日	岩手山	網張スキー場～山頂往復	L古川・S山田(潔)・石川	3	会
37	3月11日	岩手山	相ノ沢P～七合目付近往復	L大峠・S木村(一)・村田・柚澤・三浦(明)・徳永	6	会
38	3月12日	網張スキー場	スキー場周辺	講師:木村(一) スタッフ:三浦(明)・中村(敦)・野中・高橋(英)・小原(耕) 受講者:工藤(敬)・加藤(桂)・岡(義)・小田(春)・高橋(陽)・中村(美)・級木・遠藤(千)・日比野	15	会
39	3月16日	鎌倉森	網張ビジターセンター～鎌倉森～網張スキー場	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・日比野	4	会
40	3月17日	東根山(928.4m)	ラ・フランスコース	L岡(義)・S加藤(桂)・川村(雅)・高橋(恵)・太田代	5	会
41	3月18日	姥倉山	網張スキー場～姥倉山～湯の森～松川温泉	L三浦(明)・S石川・山田(潔)・古川・大峠・村田・小原(耕) [会員外]1名	7	会
42	3月19日	青麻山	青麻山口～青麻山～あけら山往復	L千田(勝)・S本間(典)	2	会
43	3月19日～3月20日	三ツ石山(1,466m)	網張スキー場～山頂往復	L熊谷(久)・S新田・中村(美)・石澤・日比野・高橋(陽)	6	会
44	3月20日	乳頭山、秋田駒ヶ岳	孫六～乳頭山～焼森～秋田八合目～アルパコまくさ	L三浦(明)・S山田(潔)・S石川・徳永・小原(耕)・柚澤・村田・大峠	8	会
45	3月25日～3月26日	夏油三山	夏油スキー場～牛形山～金明水～経塚山～金ヶ崎駒ヶ岳～夏油大橋	L古川・S山田(潔)・柚澤・村田・舟越	5	会
46	3月26日	貝吹岳	仙岩トンネル口～山頂往復	L本間(典)・S中村(敦)・遠藤(千)・工藤(敬)・日比野・級木・加藤(桂)・高橋(陽)・小田(春)・中村(篤)	10	会
47	4月2日	西東根山	ラフランス口～一ノ平～西東根山往復	L小田(嘉)・S中村(敦)・中根・石澤・日比野・熊谷(久)・級木・加藤(桂)・本間(典)・高橋(陽)・小田(春)・大倉・中村(篤)	13	会
48	4月2日	室根山	蟻塚公園コース	L千田(勝)・村上	2	会

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
49	4月8日	焼石岳	つぶ沼～山頂往復	L三浦(明)・S古川・舟越・高橋(豊)・村田・大峠・松田(希)・松田(幸)	8	会
50	4月8日 ～4月9日	秋田県境(下東山、大森山)	ビューポイント栗駒～県境尾根～P959～椿台	L辰巳・S中村(数)・加藤(桂)・小田(嘉)・工藤(敬)・小田(春)・本間(典)・大倉・高橋(陽)・中村(篤)	10	会
51	4月9日	御駒山、大土ガ森	国立青少年の家～御駒山(左周り)、大土ガ森口～山頂往復	L千田(勝)・S熊谷(久)・石澤・級木	4	会
52	4月16日	岩手山	柳沢コース(八合目まで)	L級木・S新田・熊谷(久)・大倉	4	会
53	4月16日	八方山(716.6m)	長根崎～山頂往復	L岡(義)・S吉田(成)・遠藤(千)・川村(雅)・高橋(恵)・府金(志)・太田代・小川(優)・三澤	9	会
54	4月22日 ～4月23日	八幡平	見返り峠～陵雲荘～八幡平エリア	L山田(潔)・S小原(耕)・S久保・武田(秀)・石川・柚澤・高橋(英)〔会員外〕1名	7	会
55	4月23日	焼石岳	つぶ沼上部平七沢ゲート～山頂往復	L渡邊(健)・S遠藤(千)・石澤	3	県連
56	4月23日	八方山	長根崎口～j八方山～三角点往復	L北田・S中村(美)・工藤(敬)・級木	4	会
57	4月23日	太田薬師	登山口～山頂～猪去林道～登山口	L古川・S府金(志)・三澤・三戸・小野(由)	5	会
58	4月24日	岩手山	柳沢コース	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・日比野・級木・岡(義)	6	会
59	4月30日	秋田駒ヶ岳	アルバコマクサ～女目岳往復	L古川・S山田(潔)・S三浦(明)・小原(耕)・舟越・小泉・徳永〔会員外〕1名	7	会
60	5月3日 ～5月4日	鳥海山	矢島口コース	L石澤・S中根・中村(美)・遠藤(千)・新田・日比野・熊谷(久)	7	会
61	5月3日 ～5月4日	秋田県境	北沢林道～桑原岳～上鉢山～大薊山往復	L本間(典)・S中村(数)・工藤(敬)・高橋(陽)・小田(嘉)・小田(春)・大倉	7	会
62	5月4日	霞露ヶ岳、鯨山	登山道入口分岐～霞露ヶ岳往復、無線中継所分岐～鯨山往復	L千田(勝)・S武田(秀)・川村(雅)・三澤	4	会
63	5月11日	赤林山	県民の森キャンプ場コース	L工藤(敬)・S中村(美)・日比野・北田・級木・本間(典)	6	会
64	5月28日	徳仙丈山、大森山	本吉町口～徳仙丈山往復、林道浮野線口～大森山往復	L千田(勝)・S工藤(敬)・中村(美)・村上・日比野・熊谷(久)・菊地(広)・府金(志)・小野(由)	9	会
65	5月28日	秋田県境	県境大森トンネルから南(東山方面)	L小田(嘉)・S熊谷(久)・S中村(篤)・高橋(陽)・小田(春)・大倉	6	会
66	6月11日	五葉山	黒岩コース～山頂～松山コース	L級木・S工藤(敬)・熊谷(久)・府金(志)	4	会
67	6月11日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	【総括】L渡邊・S福山 【A班】L中村(数)・S吉田(成)・高橋(陽)・高橋(豊)・高橋(英)〔会員外〕5名 【B班】L中村(美)・S遠藤(千)・小川(優)・高橋(敏)〔会員外〕3名	11	会
68	6月14日	茶臼岳	茶臼口コース	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・高橋(英)・北田	5	会
69	6月17日	三ツ石山(1,466m)	網張スキー場～リフト～犬倉～三ツ石山往復	L岡(義)・S高橋(恵)・太田代・三澤	4	会
70	6月18日	三ツ石山	松川温泉コース	【総括】L渡邊(健)・S古川・福山 【A班】L中村(数)・S吉田(成)・S久保・高橋(陽)・柚澤・小原(耕)〔会員外〕6名 【B班】L松田(幸)・S松田(希)・石原・桜庭・小川(優)・高橋(敏)・戸田〔会員外〕2名	16	会
71	6月24日	秋田県境	県境大森TN～南下～柏峠～東山方向往復	L小田(嘉)・S中村(数)・高橋(陽)・小原(耕)・中村(篤)	5	会
72	6月25日	八甲田山	田代口～赤倉岳～毛無岱～酸ヶ湯	L渡邊(健)〔会員外〕34名	1	県連
73	6月25日	早池峰・中岳・鶏頭山	小田越～早池峰～中岳～鶏頭山～岳	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・中根・日比野・級木	6	会
74	6月29日	六角牛山	峠口～山頂～中沢川口	L工藤(敬)・S中村(美)・北田・級木	4	会
75	7月2日	岩手山	柳沢コース	【A班】総括L渡邊・S中村(数)・中村(美)・北田・松田(希)・加藤(桂)・山崎(祐)・渡部(彩) 【B班】L本間(典)・S松田(幸)・吉田(菊)・大峠・吉田(成)・三澤・三戸・柚澤	16	会
76	7月2日	岩手山	御神坂コース	L小田(嘉)・S高橋(陽)・小川(優)・小原(耕)・大倉・舟越	6	会

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
77	7月2日	姫神山	城内コース	L 千田(勝)・S府金(志)・高橋(英)・石澤・三浦(明)・石原・浦部・大森・大木	9	会
78	7月2日	姫神山	一本杉～山頂～こわ坂	L 岡(義)	1	会
79	7月8日 ～7月9日	相ノ沢キャンプ場	キャンプ場内	松田(希)・府金(志)・高橋(陽)・小田(嘉)・小田(春)・岡(義)・大倉 【スタッフ】野中・中村(数)・松田(幸)・高橋(英)・三浦(明)・小原(耕)	13	会
80	7月8日 ～7月9日	鳥海山	矢島口康新道コース	L 渡邊(健)・S石澤・遠藤(千)	3	全国連
81	7月13日	焼山	御所掛温泉～焼山～湯の沢～ペコ谷地～御所掛温泉	L 工藤(敬)・S級木・中村(美)・北田・吉田(菊)	5	会
82	7月15日	早池峰	小田越コース	L 工藤(敬)・S北田・級木・舟越	4	会
83	7月18日	岩手山	柳沢コース	L 工藤(敬)・S中村(美)・北田・級木	4	会
84	7月22日	七折の滝→たたら山	嫁ヶ淵ピストン→たたら山周辺	L 岡(義)・S三澤・川村(雅)・北田・級木・山崎(祐)・大倉	7	会
85	7月30日	源太ヶ岳	松川温泉コース(お花畑周回)	L 熊谷(久)・S級木・遠藤(千)・吉田(成)・柏木・吉田(菊)	6	会
86	8月6日	南本内岳(1,486m)	中沼コース	L 熊谷(久)・S遠藤(千)・川村(雅)・石澤・日比野・級木・北田・吉田(菊)・舟越・小野(由)	10	会
87	8月20日	川目		【受講者】渡邊(健)・石澤・級木・加藤(桂)・武田(秀)・本間(典)・高橋(陽)・村田・大倉 【スタッフ】中村(数)・松田(幸)・三浦(明)・高橋(英)	13	会
88	8月20日	鳥海山	蔵川ヒュッテ～七高山往復	L 古川・S府金(志)・三澤	3	会
89	8月20日	男助山(758.4m)	ケッパレランド～山頂往復	L 岡(義)・S山崎(祐)・川村(雅)・太田代・柏木	5	会
90	8月31日	又一の滝	馬留ロピストン	L 工藤(敬)・S級木・中村(美)・石澤	4	会
91	9月3日	岩手山	上坊コース	L 渡邊(健)・S舟越・石原〔会員外〕1名	3	会
92	9月3日	岩手山	柳沢コース(A班)	L 加藤(桂)・S中村(数)・中村(美)・石澤・小田(春)・遠藤(千)・菊地(広)・小川(優)・熊谷(久)	9	会
93	9月3日	岩手山	柳沢コース(B班)	L 三浦(明)・S高橋(陽)・工藤(敬)・級木・高橋(英)・本間(典)・佐々木(善)・古川・山口	9	会
94	9月3日	姫神山	一本杉～山頂～こわ坂(A班)	L 小田(嘉)・S高橋(恵)・武田(秀)・三澤・浦部・佐々木(優)	6	会
95	9月3日	姫神山	一本杉～山頂～こわ坂(B班)	L 福山・S吉田(成)・太田代・高橋(敏)・亀田(英)・亀田(金)	6	会
96	9月9日	大薊山	国道342号～天狗森～大薊山往復	L 本間(典)・S中村(数)・加藤(桂)・小田(嘉)	4	会
97	9月16日	神室連峰 虎毛山(1,433m)	赤倉沢コース	L 本間(典)・S日比野・中村(美)・石澤・工藤(敬)・小田(嘉)・小田(春)	7	会
98	9月17日	岩神山(1,103m)	区界ウオーキングセンター～山頂往復	L 岡(義)・S吉田(成)・太田代・小川(優)・柏木	5	会
99	9月23日	源太ヶ岳(1,545m)・三ツ石山(1,466m)	松川温泉～源太ヶ岳～三ツ石山～松川温泉	L 日比野・S小川(優)・遠藤(千)	3	会
100	9月23日 ～9月24日	一切経山・吾妻小富士・磐梯山	浄土平～吾妻小富士往復～一切経山往復・浄土平～八方台～磐梯山往復	L 古川・S舟越・工藤(敬)・小野(由)	4	会
101	9月23日 ～9月24日	秋田県境	手倉街道～南下～P877往復	L 小田(嘉)・S中村(数)・渡邊・加藤(桂)・高橋(陽)・小田(春)・小原(耕)・大倉	8	会
102	10月1日	八幡平	見返り峠～山頂～長沼～大沼	L 福山・S遠藤(千)・S新田・吉田(成)・小川(優)・三澤・高橋(敏)・亀田(英)・亀田(金)・佐々木(優)・小野(由)〔会員外〕4名	11	会
103	10月8日	大平山(1,170.5m)	宝蔵岳コース～山頂～旭又コース	L 本間(典)・S工藤(敬)・襲地・古川・熊谷(久)・北田・級木	7	会
104	10月9日	八甲田山(大岳)	酸ヶ湯～大岳～毛無岱～酸ヶ湯	L 古川・S中村(美)・吉田(菊)・大倉・三澤〔会員外〕2名	5	会
105	10月12日	七時雨山	南峰登山口～南峰往復	L 工藤(敬)・S北田・級木・本間(典)	4	会
106	10月15日	石上山	砂子沢口～山頂往復	L 武田(秀)・三澤	2	会
107	10月15日	八幡平(安比岳・黒谷地・茶臼岳)	赤川ダム口～安比岳～黒谷地～茶臼岳～赤川ダム口	L 本間(典)・S新田・中村(美)・石澤・工藤(敬)・日比野・熊谷(久)・北田	8	会
108	10月15日	女神山(955.8m)	相沢口～山頂～白糸の滝往復～相沢口	L 岡・S太田代・川村(雅)・加藤(桂)・小川(優)・亀田(英)・亀田(金)	7	会

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
109	10月26日	女神山	尾根コース～山頂～県境コース	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・日比野・北田・吉田(菊)・佐々木(善)・佐々木(優)	8	会
110	10月28日	八幡平	見返峠～陵雲荘往復	L古川・S山田(潔)・高橋(英)・舟越・村田・工藤(敬)・中村(美)・石澤・日比野	9	会

企画主体別の山行回数(11月～10月期)



【2017(H29)年度 山行計画書様式(2014年度 様式変更、簡易版廃止)】

2017年度 岩手県労働者山岳連盟所属 盛岡山友会 ※整理番号: (No.)

A 山行計画書 (2頁まで) 提出日: 年 月 日 承認日: 年 月 日 承認者: _____

B 山行報告書 (3頁) 報告日: 年 月 日 受理日: 年 月 日 受理者: _____

計画書作成者: _____ 企画主体: 会・志向別G・個人・その他()

山行の種類: 会山行(あかげら・HP 掲示板・別会で案内) / 個人山行(公開の有無: 公開・非公開)

山行管理専用アドレス: moroka.yamakan@freeml.com / 集中管理先 Fax®: 019-641-3905

※集中管理先: 山行管理委員長(渡邊) [自宅: 019-641-3905 / 携帯: 090-9634-2257SMS可]

緊急連絡先(当番): 氏名: _____ 携帯電話: _____ 固定電話: _____

※注意
①緊急連絡先は、原則持回り当番の会員とします。
②下山予定日の 19 時までには下山連絡がない場合は、事故発生を想定し対策を講じる。

目的: _____ (※何のために山に入るのか?)

山域・山名: _____ ルート: _____

山行期間: 年 月 日～年 月 日(泊日) [予備日 月 日まで]

山行形態: 日帰り・小屋泊・テント泊・雪洞泊・その他()

ジャンル: 一般道・やぶ山・沢登り・岩登り・雪山・山スキー・アイスクライミング・海外 [トレッキング・ピークハント]

危険時の対応等: (3カブルート・行動判断等) 山行打合せ 年 月 日 帰宅予定 月 日 時 無線コールイン 金カラフォルム JE7Y00

使用車両(車種・ナンバー): _____

チェック事項: リーダーの講習受講歴 セルフレスキュー講習: 有・なし ビッケル・アイゼン講習: 有・なし

ルート経験者の有無 無・有 [氏名: _____]

参加者の技量・健康状態 良・要注意 [内容: _____]

打合せ不参加者への周知 済・未済 [手段: _____]

会員外参加者の保険加入 済・なし [理由: _____]

会員外参加者の登山経験 過去3年程度: _____

[概念図・ルート図] ※登山ルート(登山口、尾根ルート、沢ルート、方位他)を明確に表現すること。

注: ルート変更があったときは、報告時に上図に変更のルートを記載すること。

■参加者名簿 (※救命講習は過去3年以内)

No.	任務	氏名	会員No.	生年月日 or 年齢	居住地	連絡先 TEL	緊急時の連絡先 TEL	講習回数	救命講習
1									<input type="checkbox"/>
2									<input type="checkbox"/>
3									<input type="checkbox"/>
4									<input type="checkbox"/>
5									<input type="checkbox"/>
6									<input type="checkbox"/>
7									<input type="checkbox"/>
8									<input type="checkbox"/>
9									<input type="checkbox"/>
10									<input type="checkbox"/>
11									<input type="checkbox"/>
12									<input type="checkbox"/>
13									<input type="checkbox"/>
14									<input type="checkbox"/>
15									<input type="checkbox"/>

■装備等チェック表

基本装備【個人必携】	個人 装備	共同 装備
ザック	<input type="checkbox"/> テルモス	<input type="checkbox"/> シュラフ 救急バック ()
登山靴	<input type="checkbox"/> 食器	<input type="checkbox"/> シュラフカバー トランパー ()
防寒着(フリース等)	<input type="checkbox"/> 小型ストーブ	<input type="checkbox"/> マット GPS ()
雨具(積雪期用7カブ)	<input type="checkbox"/> サブザック	<input type="checkbox"/> 携帯トイレ ラジオ ()
帽子(白粉け防止効果あり)	<input type="checkbox"/> スパッツ	<input type="checkbox"/> ストック トレイルシューズ ()
手袋	<input type="checkbox"/> サンングラス	<input type="checkbox"/> 軽アイゼン トレイルシューズ ()
タオル		<input type="checkbox"/> トレイルシューズ ()
水筒	[積雪期装備]	[登攀装備] ストブ (ガス) ()
ヘッドライト(予備電池・電池付)	<input type="checkbox"/> ビッケル	<input type="checkbox"/> ハーネス ストブ (ガス) ()
計画書	<input type="checkbox"/> アイスバイル	<input type="checkbox"/> クレジットシューズ ランタン ()
地図・コンパス	<input type="checkbox"/> アイゼン	<input type="checkbox"/> クレジットシューズ 燃料(ガス) ()
時計	<input type="checkbox"/> ワカンジキ	<input type="checkbox"/> ヘルメット 燃料(ガス) ()
筆記用具	<input type="checkbox"/> スノーシュー	<input type="checkbox"/> 確保器 コッヘル ()
ナイフ	<input type="checkbox"/> オーバーグローブ	<input type="checkbox"/> 下降器 敷き板 ()
ホイッスル	<input type="checkbox"/> ロングスパッツ	<input type="checkbox"/> カラビナ ()
細目(6mm×10m)	<input type="checkbox"/> 手袋(予備)	<input type="checkbox"/> スリング ()
ビニール袋	<input type="checkbox"/> 目出帽	<input type="checkbox"/> ロープ トレイルシューズ ()
新聞紙	<input type="checkbox"/> ゴーグル	<input type="checkbox"/> ハンマー 天気図用紙 ()
ロールペーパー	<input type="checkbox"/> ビーコン	<input type="checkbox"/> アフミ
医薬品(白粉け止め剤)	<input type="checkbox"/> スコップ	<input type="checkbox"/> フィーフイ
ツェルト	<input type="checkbox"/> フループ(ソソデ)	<input type="checkbox"/> ハーケン ()
非常食	<input type="checkbox"/> スキー	<input type="checkbox"/> ナッツ ()
非常バック	<input type="checkbox"/> スキーストック	<input type="checkbox"/> フレズ ()
緊急対応カード	<input type="checkbox"/> シール	<input type="checkbox"/> ジャンピング
保険証	<input type="checkbox"/> スキーアイゼン	<input type="checkbox"/> ポルト ()
図形資料	<input type="checkbox"/> アイスクシュー ()	
ライター		
ローソク		
レスキューシート		
チェンクテープ		
キネシオテープ		
針灸		

食料計画
行動食(各自) 日分 共同食 食(朝: 昼: 夜: 予備:)
非常食(各自) 食分 メニュー:

2017みんなの山歩き

山友全員
アンケート発表！

Q1. 8月11日が「山の日」として祝日になりましたが、何をしてすごしましたか？

Q2. 次回の山行や今後の山行は何を参考に決めますか。(例えばクチコミ、会の山行計画、ヤマレコやブログなどのインターネット情報、雑誌等。)

Q1. 去年は初の祝日ということで、東北・奥羽ブロック企画の栗駒山交流登山に参加した。42名も参加し、天気にも恵まれていい記念になった。今年は記念企画が何もなかったのが、来年は会の企画で記念山行というのもいいかも。

Q2. 山の好みとしては、マイナーな山で人が少なく、大自然にどっぷり漬かれるようなところ。県境の風のように、テーマを持って目標に向かう取組が好き。一緒に行く仲間がいて、感動を分かち合えるような山行がいい。最近は、誰かに誘われていくパターンが増えた。体重も増えてきたので、もっと主体的に山に向き会わねばと思う。

No. 2 渡邊 健治

Q1. 家に居ました、山には登りませんでした。国民の祝日が1日増えただけだと思います。

Q2. 自分で登っている山を季節、花などを参考に、この時期にはこの山と選んでいます。

No. 6 千田 勝則

Q1. しばらく振りに秋田駒に行く計画をしていましたが、数日前からの雨で登山道の様子を考え中止しました。

Q2. ロコミ又は会の山行計画などを見て決めています。

No. 19 中村 美栄子

Q1. 会山行がなかったので、残念に思いながらお盆に帰る準備などをして過ごしました。

Q2. 会の山行計画ですね。行ったことのない山には行きたいと思っています。

No. 70 遠藤 千鈴子

Q1. 祝日ですが特にありません。その前に山形「花笠おどり」に行ってきました。新庄駅の駐車場で車中泊、羽黒山を参詣してきました。

Q2. 個人山行の場合は、インターネット情報が参考になると思います。

No. 109 浦部 光生

Q1. 山の計画はありませんでした。

Q2. 雑誌を参考にします。自分の力量の範囲で余裕の山行をして行きたいと考えています。今まで登った山をテレビ、雑誌等で見るとたびもう一度挑戦出来たらと思っています。

No.140 石澤 妙子

Q1. 母の介護（95歳）

Q2. 会の山行計画はワクワク感がある。ただ体力に自信がないことと日程が合わない等、参加できないことが多い。県外山行等はクチコミ、登山関連の本、インターネット情報。

No.150 裊地 則子

Q1. 自宅にて家事その他過ごしておりました。

Q2. 実現は難しいですが、TVの「百名山」やトレッキング番組を見ていつかは行きたいと思っています。

No.161 田中 弘美

Q1. 毎日が休日の生活ですのでいつもと変わらぬ日常を過ごしたと思います。山には行っていません。

Q2. あかげらの山行計画です。

No.196 工藤 敬子

Q1. 前職は祝日も出勤日でしたが、今年はフリーになりのにびりしていたような気がします。

Q2. 行きたい山は、ネット、単行本、雑誌です。山スキーの新たなコースは同好者のブログやYouTube、山スキーネットなどですが、もう一度行きたいと思うところもあります。例えば冬の焼石岳金明水小屋泊り山行とか。年寄りの冷や水と言われないうちに色々行きたいですね。

No.234 古川 孝

Q1. 今年は特に印象に残るような過ごし方はしていません。山には行かなかったです。

Q2. ①会の山行計画をみて申し込む。②遠くの行きたい山を仲間と企画する時はヤマレコ、雑誌等を参考に決める。

No.250 日比野 保子

Q1. 天気が悪かったので家事をしていました。（お盆の準備）

Q2. 自分が行きたいと思っている山、行ったことのない山、行ったことはあってもしばらく行って無い山。

No.252 高橋 恵美子

Q1.お盆の準備で家の仕事をしていた。草取り、庭の木の手入れなど。

Q2.地図を見て今まで登っていない山、県境を含めて古い道やまだ登っていない山、登山道の無い山など計画して行きたいと思います。

No.267 中村 数博

Q1.お盆準備の墓掃除をしてから、仕事をしていました。山には行けないですね。

Q2.山岳ガイド（図書）とインターネット検索と国土地理院 1/25000 地図をメインに計画します。

No.277 松田 徹

Q1.岩泉にクライミングに行こうと思っていたが、天気が悪そうだったので諦めた。何もしない休日だった。

Q2.昨シーズン成功しなかった山行のリベンジ。昔の記録を古い雑誌やインターネットで見つけて参考にしています

No. 279 松田 幸久

Q1.家族で買い物をしたり墓掃除をしたりとお盆の準備をしていた。

Q2.会の山行計画を見て、登れそうなところを決める。

No.281 北田 絹恵

Q1.秋田駒ヶ岳を計画していましたが雨で中止となりました。とても残念でした。

Q2.会の山行計画を参考にしています。

No.288 級木 信子

Q1.天気予報がイマイチだったので自宅にいたら、川村雅子さんが庭で採れたブルーベリーとお手製の梅酒を届けて下さいました。梅酒がカレーの隠し味になることを教えていただき、それから松田家のカレーには梅酒が入っています。

Q2.冬にむけて、昨年敗退した山への再チャレンジ、滑りたい山、アイスクライミングに案内する約束をしている方がいるので、そのためのトレーニング山行をしようと思います。

No. 294 松田 希

Q1.お天気が悪い予報だったので、山に行く計画はたてず…買い物などをしに出かけました。

Q2.山の雑誌やブログなどのインターネット情報が多いです。魅力的な山小屋に泊まることも目的の一つになることがあります～。

No. 301 久保 加世子

Q1. 一番暑い時期なので高山（2500m超）か沢など涼がある山行を考えますが、今年は興味がある山が思い浮かびませんでした。そこで家庭菜園で白菜の種まき、草取りをしていました。

Q2. ①行きたい山がある時、その候補の中から、今の時期に旬の山はどこか考えます。今山に登るとみられる景色（暑いか寒いか？花は咲いているか？何の花が咲いていそうか？山菜は出ていそうか？キノコにありつけそうか？紅葉はみごろか？・・・）を想像して、楽しいだろうと思われる山を見つけます。その時参考にするのが、ヤマレコ等ネットで山の名前を検索して裏付け資料を見つけます。

②行きたい山が思い浮かばない時、雑誌やあかげらの山行計画から、興味がわくものを見つけます。

No.305 山田 潔

Q1. 仕事です。

Q2. 会の企画した山行、個人で企画した山行

No. 307 加藤 桂子

Q1. 忘れました。

Q2. 銀世界ミーティングの際の情報。

No. 323 三浦 良夫

Q1. 忘れました。何処かに行ったかも…。

Q2. 会の山行計画 日本及び東北 100 名山、200 名山 分県(50)の山 高山植物(花)。

No. 341 武田 秀雄

Q1. 我が家の庭の手入れ(お盆前のため)

Q2. 季節を見ながらの計画です。

No. 345 山崎 祐三

Q1. お盆の準備です。この日の毎年の恒例になりそうです。

Q2. 「登山時報」の連載ではありませんが、「ワタシと登山 どんな山がやりたいんだ？」という状態です。行きたい山に行ける状況ではないので、一昨年くらいから、行く先に悩み迷っています。という訳で、今回のこの質問は、私が考えました。みなさまのご意見を参考にさせていただきます！

No.357 渡部 彩子

Q1. 山へ花観察に出かけました！

Q2. 本。ネット情報、知人情報等

No. 358 石川 享子

Q1.北海道ニセコの尻別川でラフティングしていました。

Q2.カミさんの機嫌をみて、行けそうだったら話を切り出します。その際は、なるべく遠くて高い山から話すようにしています。

No. 363 小野寺 健一

Q1.孫とのおつきあい

Q2.会の山行計画

No. 364 吉田 菊男

Q1.実家の墓参り

Q2.クチコミ、会の山行計画

No. 367 太田代 恵久子

Q1.特に何もしてませんでした。

Q2.ネット情報

No. 370 本間 典

Q1.一日中、仕事をしていました。

Q2.ガイドブックです。登った山の山頂で、見えている山から決める事もあります。

No. 372 辰巳 和司

Q1.お盆の為 お墓参りに出かけました。

Q2.県境は自分達で地図、GPS等を見て調べ出かけます。百名山はヤマレコ、雑誌を参考にしています。会の山行計画を見て参加する場合があります。

No. 373 高橋 陽子

Q1.家でゆっくり。

Q2.過去の自分の記録、ヤマレコ、間近の花等の情報はTwitter、Facebook、ブログ、岩手の山などの本。「あの山に、あの花が咲いた」などが動機になることが多いです。

No. 378 高橋 英里子

Q1.山の仲間をつのり黒倉山に行ってきました。天候に恵まれ有意義にすごしました。

Q2.クチコミや会の山行計画、自分の行きたい山登りたい山を企画しています。

No. 382 三浦 明夫

Q1.お盆の先行組と後行組の入れ替えに伴う清掃・整理と窓ふき。

Q2.県境の風の山行を第一優先に、専門部・志向別の計画の空きを調整してある程度の人数確保を目途に決定。個人山行は天気を見て、皆さんの報告書を見て決定

No. 385 小田 嘉洋

Q1.日記を書いていないので判らないが、山行きの記録もないので多分、家でゴロゴロしていた。

Q2.山行の計画のベースは天候と車の使用权の確保（一台なので）、それからヤマレコで最近の手近な山の状況を確認して目的地を決める。

ただ、海外山行は行きたい地域をブログ等で検索して情報収集を行ってから、自分なりの日程計画を立て、その場合の概算費用の見積もりを行う。この過程が私にとっては至福の時。

No.416 福山 茂和

Q1.お盆の準備や孫たちの相手

Q2.インターネット情報やガイドブック。会の山行報告書による。

No. 421 小田春美

Q1.仕事でした。

Q2.あかげらを見て、クチコミでキレイな山があったら。

No. 423 小川 優子

Q1.仕事で山へは行けませんでした！

Q2.①会の山行計画に参加しています。

②ヤマケイオンラインに登山予定を登録しておくで予定日の3日前天気予報メールが届きます。計画書も作成できます。

No.433 岡 義博

Q1.墓そうじ

Q2.会の山行計画。

No.444 大森 信慈

Q1.こっそり山に登りました。

Q2.会の山行計画

No. 452 大木 由里

Q1.手術後で病院ベッドから岩手山などを眺めていました。楽しく山登りをすることと健康であることのありがたさを楽しみ感じていました。

Q2.会の山行計画、ヤマレコなどのネット情報。

No.454 小原 耕

Q1.家族と山でない所に旅行。

Q2.会の山行計画

No. 455 大倉 博

Q1.観光会社のツアー参加（岩手山 網張～焼走り 1泊2日）

Q2.（質問に）記載されている機能全て活用する。

No. 459 三澤 信裕

Q1.自宅でのんびりしていました。

Q2.あかげらをみて、会の山行を楽しみに決めます。

No. 472 小野 由理

Q1.山の日は大連休で、東京に遊びに出かけました。

Q2.会の山行計画を参考にしています。「星」一つの山を選んで登りたいです。

No. 476 亀田 金花

Q1.TV、ニュース。天気が悪かったので家でゴロゴロしていました。

Q2.インターネット情報。雑誌。会の山行計画。

No.477 佐々木 善男

Q1.お盆が近いので食料品の買い出しに行きました。

Q2.見所がある山、滝がある、沢がある、花が多い、眺望が良いなど。仕事の休みと会の計画が合えばどの山も行きたいところです。

No.478 佐々木 優子

Q1.大好きな山へ出かけました。真夏は無理をせずに主に低山で遊んでいますが、今年は八幡平の茶臼の頂上でコーヒーを飲み、八幡平までトレッキングしていました。

Q2. インスタのフォロワーさんの情報や、友人の誘いで、お天気を見て出かけます。時に遠い所へは、ツアーを利用したりしているので、ネット情報も確認します。今後は会の山行計画も参考にしたいと思います。

No.480 竹田 真弓

Q1. 仕事でした(T_T)。

Q2. おもにインターネットで、山行の様子を見て参考にします。

No.481 谷原 伸一



短歌

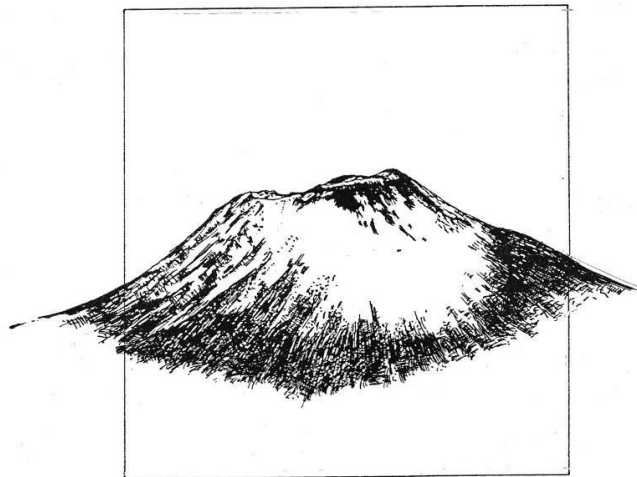
No. 459 三澤 信裕

一・岩手山里見雄大
美しき火口頂き負けずに見事

二・岩手山姫神に見る
楽しさや左右対称これぞ富士なり

三・三ツ石の笹とりん
どう愛おしや義経家紋みちのくにあり

四・紅葉の八幡平の穂
やかさ自然愛する善男善女



秋の虹

山始め かんじき軽く 雑煮待つ (新年山行)
初富士や 見せたきかの人 雲の上
(田部井淳子さんを偲ぶ)

春光る 遠き真白き 山々も
花便り 耳にし登る 雪の山
飛ぶ鷺の 雪型日々に 拡がれり

空の色 雲の形に 秋気配
大夕焼け 山ひださらに 深くして
岩手山 足下に架かる 秋の虹

No.19 M. N



Photo 舟越茂雄 (2017.1.7 新年山行)

えりも岬とアポイ岳 2015年6月

No.6 千田勝則

北海道の背骨、日高山脈の南端にあるアポイ岳は標高 810mの低い山ですが、緯度の関係で本州の2000m級に咲く高山植物が多い超塩基性の地質からなっております。アポイの名が付く、高山植物も咲いています。

苫小牧駅からレンタカーを借り、日高自動車道を日高門別まで、ここから国道を走り4時間でえりも岬に到着。えりも岬と書かれた看板の前で記念撮影をし、遊歩道の脇にはエゾエンゴサク、ハクサンチドリが見られる。森進一と島倉千代子の歌碑も立っている。売店でみやげを買い、今夜の宿に着。

翌日、レストハウスの駐車場で朝食を取り、霧雨なので雨具を着て、入山届けを書いて出発 6:00。登山道はよく整備されていて歩きやすい。やがて幅広い林道よりうっそうと樹林が生い茂った登山道に入り、所々に動植物の案内板とベンチがあり吸いガラ入れもある。最後の水場からジグザグの登りが続き5合目に小屋に着く。ガスでは回りは何も見えない。

小屋を過ぎると道は傾斜が一段ときびしくなり、多くの高山植物が見られる岩石地が続く。ちょっと油断すると滑って転びそうな岩だらけの道、赤矢印ペンキの表示の通り一步一步ゆっくりと登っていき、急坂を登りきって尾根の馬の背に着。稜線を歩き、幌満分岐から頂上に向かう。登山道の両側、岩の割れ目に咲く花を見ながら、ハイマツ帯の急登を登って山頂に到着 9:00。アポイ岳の頂上はダケカンバの林で眺望は得られない。

幌満コースに下り、お花畑に着。登山道はトラバースの登山道を馬の背手前の分岐に着。登って来た道を下山し、レストハウスの駐車場着 12:00。

初登頂は1983年8月。山頂へは7回登頂しました。

アポイ岳で見られた花

アポイアズマギク、アポイスミレ、アポイクワガタ、アポイマンテマ、アポイカラマツソウ、エゾオオサクラ草、ミヤマオダマキ、チャボゼキショウ、ヨツバシオガマ、タカネオミナエシ、キンロバイ、ヒメエゾネギ、エゾヤマツツジ、スズラン、ヒロハヘビノボラズ

えりも岬へは、日高本線終点様似駅からバスかタクシー。「えりも岬」の歌がヒットし、はやったころの話。様似町はタクシー4台。JRの前、国鉄の列車は3両編成でほとんど満員だったとの事。国鉄バスは駅から7台で運行していたとの事。それでも人が乗れなくて、タクシー4台で往復して、1日で最高で5往復したことがあったとの事。えりも町を通りますが、以前の町名は幌泉町との事。しばらくして両側に小高い草原の中ほどに柵があるのはエリモシヤクナゲの自生地です。



アポイキンバイ



アポイコザクラ

槍ヶ岳

No.301 久保加世子

日 程：2017年9月7日（木）～9月10日（日）

メンバー：久保 他3人

9/7

松本駅に着くと天気予報通り雨がポツポツと降ってきた。今回は「槍ヶ岳の山頂でプレートを持って写真を撮る」ことを目的に上高地からの往復で山行を計画した。この日は上高地のバスターミナルから2時間、徳澤まで歩けば良い。翌日からは晴れの予報だし、今日だけ・・・とカップを着て歩き出した。

雨なので上高地はさすがに人が少なく、河童橋にも全然人がいなかった。16時、予定通り徳澤園に到着した。徳澤園は井上靖の小説「氷壁」の舞台にもなった山荘でとても素敵なおところであった。

9/8

夜遅くまで雨が降っていたが、6時の出発時には雨は上がっていた。槍ヶ岳までの長丁場なので早めに出発する。



槍沢ロッジで徳澤園に頼んだ朝食を食べ、本格的な登りに備える。歩くにつれ、青空が見え始め、東鎌尾根の水俣乗越に向かう「大曲」を過ぎると、山々の姿がはっきりと大きくなってきた。

しかし、ここから一気に歩くペースが落ちる。目指す槍ヶ岳はまだまだ先、姿も見えない。とにかく、一步一步進むだけである。

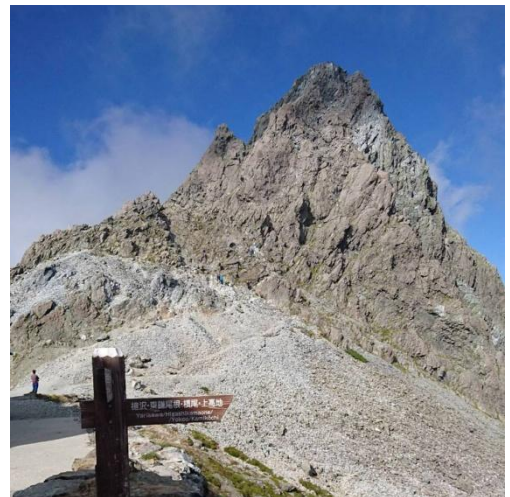
登山道はしっかりと整備されており問題ない。脇にはトリカブトの花がたくさん咲いていた。

天狗原の分岐を過ぎ、ジグザグの登山道を休憩をいれながらゆっくりと登る。水場となっている沢を渡り、大きく曲がったところで前方に目指す槍ヶ岳が遠く姿を現した！

薄く雲がかかり、山頂部分が見えそうで見えない。しかし、目標となる山が見えたことで元気が出てきた。途中から1500の文字があり（槍ヶ岳までの距離と思われる）、少しずつ減っていく数字にさらに元気をもらう。

徐々に雲もとれははっきりと槍の穂先まで見えるようになった。殺生ヒュッテの分岐を過ぎ、最後のつづら折りをもう少し、もう少しと登り、槍ヶ岳山荘前に着いた。

目の前にはドーンと槍の穂先！！ その姿に感動。そして、無事にここまで来られたことが嬉しかった。



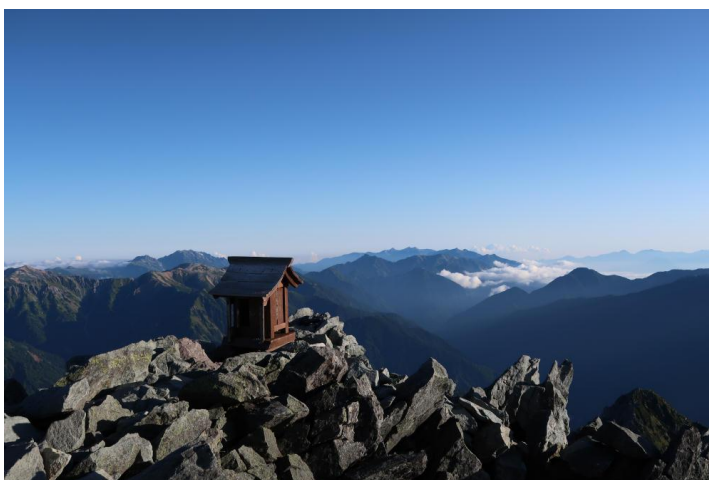
槍の山頂には次の日に登ることにし、まずは山荘前のテラスで乾杯である。前には常念岳からの表銀座の山々が、そして、反対側には雲ノ平方面の山々が見えた。

夕方には夕日とキレイな夕焼けを堪能した。

9/9

夜にはガスがかかり残念ながら星空は見えなかったが、朝にはガスもとれ山荘前で雲海から上がる素晴らしいご来光を眺めた。朝食後、槍の山頂に向けて出発である。ゆっくりと、そして、岩をしっかりと持って慎重に登る。いよいよ最後の梯子。ドキドキしながらも自然と笑みがこぼれてきた。

山頂では 360° の眺望が出迎えてくれた。祠の横で「槍ヶ岳」と書かれたプレートを持って写真を撮ってもらい、無事に目的を達成した。



山荘に戻り下山を開始する。週末でお天気が良いので既に多くの人が登ってきている。この日は横尾までの下山で時間的に余裕があるため、天狗池に映る槍ヶ岳（逆さ槍）を見に行くことになった。天狗原の分岐から天狗池に向かう途中にはお花畑が広がっている。このあたりは氷河公園とも呼ばれているとか。写真を撮りながらなのでなかなか進まない。約 40 分で池に到着、風もほとんどなく湖面に映る逆さ槍を楽しんだ。



来た道に戻り、槍沢ロッジでやや遅い昼食を取り大休憩をする。槍沢ロッジの林の中からは小さく槍の穂先が見えた（ここに望遠鏡が設置されており、覗くと山頂にいる人も見ることができた）。

その後は樹林帯の中を横尾山荘に向かって下る。まだまだ多くの人が登ってきていた。この日は横尾山荘に宿泊。シャンプーや石鹸は使えないがお風呂がある。さっぱりとして美味しい夕食をいただき、槍ヶ岳に登れた余韻に浸り就寝した。

9/10

最終日のこの日は上高地散策である。徳澤園では名物のソフトクリームを食べ、明神からは明神池へと向かう。明神池（参拝料 300 円）、嘉門次小屋（嘉門次小屋では岩魚を食べた）と巡り、上高地の景色を眺めながら歩き、初日と違い大勢の人がいる河童橋を渡り（残念ながら穂高の山々は山頂に雲がかかっていた）、上高地バスターミナルに着いた。計画より一本早いバスに乗り、長野でゆっくりとして盛岡へ帰った。

2011 年、とある本がきっかけで常念乗越から槍ヶ岳を見たいと常念岳に登った。初めての北アルプスで、この時もお天気に恵まれ、槍ヶ岳を見たときは大感激だった。そして、いつかは槍ヶ岳に登りたいと思った。

今回は槍ヶ岳から常念岳を見ることができ、この時の感激を思い出した。

ただ、この山行を楽しみにしていたのだが、初日に持病の片頭痛が発生…。薬を飲んだがなかなか良くならない。いつもなら次の日は治まるけど、大丈夫かと心配だった。多分、他のメンバーも心配だったと思う。

また、メンバーひとりのカッパのパンツが徳澤園の乾燥室で紛失ということもあった。

それでも、二日目からは頭痛も良くなり、お天気にも恵まれ無事に山行を終えることができた。大満足！！ 一緒に行ってくれて、いろいろと励ましてくれたメンバーに感謝いっぱいである。



雲の平周遊

(薬師岳 2926m、黒部五郎岳 2640m 鷲羽岳 2924m 水晶岳 2978m)

No305 山田 潔

今年の秋、「日本一遠い温泉」：高天原温泉に入浴する事を目的に、北アルプスダイヤモンドコースから入山、山小屋 5 泊の全行程 7 泊 8 日の雲上のロングトレイルを実行した。

9/24 (日) はるばる北陸富山に遠征し、薬師岳登山口の折立でテント前泊。

9/25 (月) 早朝 5:45 太郎坂を登り太郎兵衛平を経て薬師岳に向かった。快晴に恵まれて終始白山が見え、太郎兵衛平からは黒部五郎岳、鷲羽岳、水晶岳等々北アルプスの主要な山が後押ししてくれて、薬師岳まで 7 時間の道のりは苦ではなかった。薬師岳山頂からは、北に黒部ダムや剣岳、後立山連峰の山々が見え、南には槍穂高連峰まで見渡せた。疲れを癒す為たっぷり 1 時間休憩し、薬師岳山荘で宿泊した。寒かったが日本海に落ちる夕日を眺めてから床に就いた。



9/26 (火) 朝食後 5:30 に山荘を出ると今日の目標黒部五郎岳は、眼下の太郎兵衛平から北ノ俣岳・赤木岳の草紅葉の斜面を経て遥かかなたに見えた。霜の付いた木道を滑らぬよう注意して、目の前に広がるパノラマを楽しみながら歩いた。北ノ俣岳に登る登山道からは何度も振り向いては遠ざかっていく薬師岳の紅葉を名残惜しみ、だんだん大きくな



てくる黒部五郎岳にワクワクした。道は、中俣乗越に一旦下り、腹ごしらえをして最後の登りに挑んだ。7 人ツアーの叔母様たちもあえぎながら登っていた。彼女たちは黒部五郎岳肩にザックをデポして空身で山頂を目指すようガイドから指示されていたが、我々は山頂で飲食するべくザックを背負ったまま大きな岩を登った。五郎の名のとおり最後は大きな岩がゴロゴロして登り

にくかった。山頂から東に切れ落ちているカールをのぞくと黄色の紅葉が見事で、おにぎりを食べながら、「あれが笠、双六、蓮華、水晶・・・」と穏やかな紅葉の山を楽しむ。カールの中を下るより稜線からカールを見下ろしながら小屋に向かった方が景色が良からうと思い、近くにいたツアーガイドにルート確認すると「岩場だが○印があるから大丈夫」との事。「あくまでも破線コースですよ」と念を押されたが稜線コースを下り、上からカー

ルの紅葉を楽しんだ。カール末端の黒部五郎小屋で手続きをすると、明日宿泊予定の水晶小屋は昨日で営業終了したとの事。そこで、天気悪化予報もある事から、管理人からもアドバイスを仰ぎ行程を再検討し、多少行程が長くなるが高天原温泉まで下ることとした。

27 (水) 今日晴天で朝一番は三俣蓮華岳への登りから始まる。時間節約の為、巻道を通って三俣山荘に向かった。朝日を浴びる黒部五郎カールの紅葉が鮮やかだった。三俣山荘から鷲羽岳への直登が始まると、つづら折りの白いザレ場登りだが、右に向かえば槍ヶ岳、左に向かえば薬師岳と景色がよく、疲れは感じなかった。中腹で山頂から降りてきた空身の叔父さんが「ザックを見なかったか」とデポしたザックを探していた。忠実に登山道を登って来たが見当たらなかった。叔父さんは一旦下りまた登り返しても見つからないよう



だった。鷲羽岳山頂からは鷲羽池越しに見える槍穂高が素晴らしかった。富士山も見えたが、今日の行程は長い為ゆっくりしてはいられないのでワリモ岳に向かう。山頂付近にトラバサがあったが、しっかりとロープが付いており問題なかった。ワリモ北分岐に下り腹こしらえをして、ザックをデポして水晶岳を往復する。薬師岳から同じ行程を前後して歩いていた男3人も同様に準備していた。夕

方から雨の予報があり、ザックカバーをしてデポし、合羽を着て身軽になって水晶岳を目指した。ザックが無いと足早で、間もなく小屋締め作業をしている水晶小屋に着いた。「ここに泊まれば景色が良かったもの

の・・・」風の強い稜線を歩き水晶岳へ向かう。梯子がかかっていたり、岩登りだったり、40年前登っているが一切記憶が無い。5~6人ほどのスペースの山頂は、まさに北アルプスの真ん中で、360度の景観が楽しめた。ここは今日の第一の目的の場所なので30分ほど感激に浸っていた。後ろ髪をひかれながらザックのデポ地点に戻ると、行程を前後してきた男3人組は雲の平に下るとの事で、ここで別れた。我々は水晶岳と雲の平の谷間にある岩苔



小沢を下り、高天原を目指した。谷を作る両斜面の紅葉の中を下り、沢筋で足元は悪いが、見上げれば右も左も赤や黄色で美しい。途中水晶池に立ち寄ると静かな水面に紅葉と水晶岳が写りしばし癒された。しばらく紅葉の樹林帯を歩き、草紅葉が現れてくると木道が高天原山荘に導いてくれた。まだ天気は持っていたが、管理人から「早く温泉に行ってください」と促され、20分山道を下ると温泉沢に出た。右岸の高台に男女の簡易脱衣所がある風呂2つと左岸の沢沿いに2つ風呂があった。誰もいないので、一番立派な女性用脱衣所で衣服を脱ぎ温泉に入る。乳白色の硫



高天原温泉 カラマツの湯

黄泉で、湯船により泉質が微妙に違い温度も違っており、素っ裸で沢沿いを駆け巡り4つすべての露天風呂に入浴した。下流の一番熱い風呂に入っているとぽつぽつと雨が落ちてきた。3日間の疲れを癒し温泉で髪を洗い、沢水ですすぐと、心臓が止まりそうに冷たかった。雨の中15分ぐらい温泉につかっから、帰りは合羽を着て傘をさして山荘に30分の山道を登った。山荘はランプの宿

が売りで、ランプが灯ってはいるものの薄暗い。夕食は豚の角煮定食で、ストーブで暖まってから、屋根に響く雨音を子守唄代わりに寝床に着いた。

9/28(木) 朝になっても雨は降っていたが、予報では夕方から晴れるらしい。9人の宿泊者中1人は布団をかぶって停滞を決め込んだようだが、他の皆は空を眺めながらポチポチ出発していった。「今日は雲の平山荘まで長くても4時間歩けば着く」と、我々も8時近くに重い腰を上げた。湿原は木道の上を水が流れている。「これでは木道の意味がない」と思ったが、木道が無ければ膝上浸水だ。恐る恐る木道を進みようやく樹林帯に入る。案の定登山道は沢と化している。慎重に岩の上や路肩を歩くが、ロープを施してある5m程の沢の渡渉点に出くわした。普段なら3m程の幅で岩の上を伝っていく所だろうが、昨夜来の雨水に増幅され泥水が荒れ狂っていた。左手でロープを持ち右手のストックで深さを確かめながら渡りきった。しかし、靴の中までびしょびしょとなった。今度は急坂に差し掛かると、沢と化した登山道を歩いているが、小沢が幾筋も合流してきて登山道である小沢がどれなのか判別付かなくなる。辺りの木や草を注意深く観察して何とか道を見つけて登り、高天原峠に着くとようやく安心できた。木道も現れて、奥スイス庭園の紅葉を鑑賞する余裕が出てきた。丘に出ると雨の中に赤い屋根がぼんやり見え、ホッとして11時過ぎに雲の平山荘に到着。「地下の乾燥



奥スイス庭園

室に火が入っているので利用してください」と温かい言葉に迎えられて熱いラーメンを食べ、身も心もほっこりした。予報通り午後から天気は回復して、天窓の下の寝床からは寝ながらにして星空が見え明日は晴れることを確信した。

9/29（金）朝 6：30 晴れていたが周りの池塘には氷が張っており、木道は白く霜がついていた。水は引いていたので恐る恐る木道を歩き祖父岳目指した。しかし、祖父岳分岐に行くまでの間にガスってきたのでそのまま三俣山荘・黒部源流方面をめざした。結局黒部源流を遡り、一昨日通った岩苔沢乗越から祖父岳へ登



ギリシャ庭園と笠ヶ岳



るといふ祖父岳一周コースをたどるがガスが晴れることなく、雲の平に戻った。スイス庭園で早いお昼を食べているとガスが引き始め、あつという間に雲一つない青空となった。「女心と秋の空」とはこのことかと実感し、祖母岳に行くと、ガスの中やみくもに歩いてきた雲の平が一望に見え、午前中の視界の無かった時間を取り返すべく小一時間ほど絶景に浸っていた。後ろ髪をひかれながら、奥日本庭園、アラスカ庭園

の景色を堪能しながら薬師沢小屋への岩ゴロゴロの急な坂を下った。1時間半ほど急坂と戦うと薬師沢と黒部川の出会い立つ薬師沢小屋に着いた。小屋では、明日最終日となる高天原温泉を楽しもうとする温泉派4人、イワナを30匹ゲットしたという釣り人と明日溪流を遡り釣りをするという釣り派3人が居て、丸いストーブを囲んでの談笑に花が咲いた。

9/30（土）快晴の下 6：30 小屋を出て慎重に霜の付いた木道を登る。太郎平小屋から来た人が、「この木道は地獄の道だ」と滑る木道の恐怖を語って行った。あまりにも天気が良かったので往路に通った太郎山に再び登った。往路では霞んでいた日本海に、能登半島の先端まで見え、白山はすそ野から雄大な姿を現していた。太郎平小屋では青空のもとでのんびりと屋根に布団を干しており、見渡せばこの山行で登った山々が一望に見え、その一つ一つを名残惜しんだ。折立登山口に向け山を下り始めると、家族連れなど老若男女が登ってきては、紅葉を身にまとう山々と青空に歓声を上げていた。



最後は有峰林道入口の白樺ハイツで地酒を味わい、ゆっくり下界に戻った。

「 杵海新道ロングトレイル 」

H29年 7/20(木)~23(日)

生協山の会 6名 山友会 : No.250 日比野保子、No.307 加藤桂子 (記)

今年の最大目標超健脚者向け標高 3000mの白馬岳から新潟県糸魚川親不知海岸 0mまで 41 キロのコース。不安がいっぱいでした。日比野さんも是非とも行きたいと申し込み頑張ってみることになりました。

7/20(木) 蓮華温泉から樹林帯の中、急登を天狗の庭少し手前に白いウルップ草がありました。珍しい「アルピノ」の花はじめてです。ゴロゴロ岩を乗り越える白馬大池で水の補給と軽い昼食をとり、小蓮華山へ、アズマキク、ジャコウ草。シロウマアサツキ等のお花畑です。さらに、きつくなりふと上を見ると白馬の山頂が真っ青な空に塔のようにみえました。山頂に着きほっとしました。目の下に山荘があります。標高差 1500m 一番つらかったです。

7/21(金) 今日は白馬岳から朝日小屋まで。白馬の山頂から三国境へ、目前には圧倒されそうな大きな山塊、雪倉岳がドーンと聳え縦走路も見えています。雪渓を無事通過し雪倉避難小屋に着き雪倉ピーク目指し、花の急登を登りいつの間にか頂上に、眼下に赤い屋根の朝日小屋、まだまだ遠い。水平道は残雪が多く通行止め。朝日岳を頑張って登り切り小屋に着く。女性の管理人さんに迎えられ、三階の広い部屋でゆっくりでした。夕食は富山名産の料理が並び一品ずつ説明が付きどれも美味しく。明日の昼の鱒ずしとクルミ寿司を楽しみに。

7/22(土) 朝日小屋から杵海避難小屋まで。綺麗な小屋。心のこもった美味しい食事とも別れ昨日下った道を登り返しアップダウンが多く長杵山。黒岩山。サワガニ山。犬が岳。と登り下りの繰り返し湿原あり花あり。アヤマ平で単独登山者が眼の前を熊が通りすぎた。と声を出したり笛を吹いたり騒いでいきました。いくつかの雪渓を超え杵海避難小屋に到着。トイレも高い所に怖いくらいでした。トイレに行く途中蛇が出て大変でした。小屋には、毛布が沢山あり使い放題です。夜はカエルが鳴きやかましく賑やかでした。

7/23(日) 杵海避難小屋から日本海親不知海岸へ。天気は良くない。すぐに雨がふりだしてきた。小さなアップダウンを繰り返しながら、白鳥山荘で体はビショ濡れ。坂田峠まで遠い。ロープ、梯子の連続。雨で道はドロドロ。木の根は張っているしすべる。転ばぬように気をつけながら、ようやく林道と交差する坂田峠につき一休み。尻高山までの広い道で歩きやすく「ほっと」する。尻高山から下る。どんだんさがる黙々と。下から車の音が聞こえてくる。待ちに待った日本海が見えてきた。国道 8 号線を横切ると親不知観光ホテルがあり駐車場に回送してもらった車がある。ザックをおき階段をおり親不知海岸に手を浸し「やったー！」と感激!!長い道のりでした。皆と一緒に頑張れたのだ。今では楽しい思い出となりました。やればできるよね！



白馬岳をバックに



白いウルップ草

私の山登りの原点 ACC-J 茨城の軌跡

No. 350 木村 一

2006年に岩手県岩泉町の会社に単身赴任したのを縁に盛岡山友会に入会させて頂き、2017年4月に茨城県の本社勤務に戻るまでの約11年間、単調に成りがちな単身赴任生活に楽しみが増え、大きな病気もしないで単身赴任生活を過ごせたのは、盛岡山友会の山仲間のおかげと思い、感謝すると共に盛岡山友会には大変お世話になりました。

特に2016年の台風10号による集中豪雨で小本川が氾濫して、勤務先と住まいが浸水被害を被った際には、自分の住まいの後片付けが後回しになってしまい、どうする事も出来ずに途方に暮れて心が折れ掛かっていた時に、盛岡山友会の山仲間が多数駆けつけて住まいの後片付けをして頂き、山仲間の友情と絆に感激し涙が出る思いでした。

盛岡山友会の会員で良かったと、このご恩は一生忘れる事が無いように深く心に刻み込んでおります。本当にありがとうございました。

私の山登りの原点は、茨城の山岳会『ACC-J 茨城』にあります。

ここで、茨城の山岳会『ACC-J 茨城』の軌跡について振り返って見たいと思います。

山岳会 ACC-J は、1962年（昭和37年）に東京仙岳会から退会した会員14名で発足しました。会の名称はオーソドックスな中に前衛的な登山を目指すのに相応しく『アルパイン・クライミング・クラブ・オブ・ジャパン』略号（ACC-J）と命名しました。

目標が夏のアルパインクライミングだけでなく、冬の岩壁登攀を目標として発足した山岳会の伝統は、その後も脈々と受け継がれ、当時としては1泊2日が常識であった冬の八ヶ岳赤岳西壁登攀、横岳西壁登攀への夜行日帰り山行が当たり前になり、更には北岳バットレス登攀や甲斐駒ヶ岳赤石沢奥壁登攀への夜行日帰り山行へと発展していきました。

国内の幾多の岩壁登攀で技術を磨いた会員は、必然的にヨーロッパアルプスへと足を伸ばし、マッターホルン北壁、アイガー北壁、グランドジョラス北壁、ドリュエ北壁、ピッツバディーレ北壁、クルト北壁、ドロワット北壁等の主要北壁の登攀に成功しました。冬期においてもグランドジョラス北壁中央クロワールの初登攀、ドロワット北壁クジールートの初登攀に成功してヨーロッパのアルプスの岩壁に輝かしい足跡を残しています。

国内においても明星山P6南壁にACC-Jルートを開拓したり、越後駒ヶ岳佐梨川奥壁赤岩スラブに新ルートを開拓したりと、前衛的な登攀中心の山行が実践されていった時代でした。

その後、本図氏がACC-J茨城支部創立を呼びかけ、創立会員として木村他2名が参加したのが1973年（昭和48年）8月でした。

ACC-J茨城の会員同士で冬の岩壁登攀を目標に毎週々山行を実践し、夏は谷川岳一ノ倉沢の登攀、冬は八ヶ岳西壁の登攀で登攀技術を磨き、厳冬期北穂滝谷の登攀、厳冬期前穂東壁の登攀、厳冬期一ノ倉沢の登攀をACC-J茨城の会員同士で出来るようになるまで成長しました。そうなるに当然海外の山にも目が向き、1976年（昭和51年）にヒンズーラジのブラッツヨース（6,191m）に本図氏が隊長になりACC-J合同隊として木村、杉山、金、阿部の5名が意欲を持って遠征した。

しかし、ベースキャンプが土石流に流されるアクシデントに遭い装備と日数不足の為に敗退したが、ブラツヨース（6,191m）は圧倒的な岩壁に囲まれ未だその頂きを踏んだ者はいません。

その後、ACC-J茨城支部から発展してACC-J茨城として茨城岳連に加盟しました。

当会の足跡は北は利尻、知床から南は西表島までと広く、活動スタイルも冬の岩壁登攀、雪稜、氷壁登攀、沢登り、バックカントリースキー、蘆山など、幅広くオールラウンドな登山を実践して現在に至っております。

また、ヨーロッパアルプスの岩壁登攀、ヒマラヤ、南米といった海外の山々に足跡を残した会員もおり、国内においては本図氏の剣沢大滝完登、赤谷川ドウドウセンの完登をはじめ、バリエーション活動も脈々と受け継がれております。

同じ釜の飯を食べ、お互いにロープを結んで命を助け合った仲間がザイルを結び44年が経過しました。その間に数々のアクシデントがあり、4名の会員が鬼籍に入ってしまった。

1名はアイガー西壁で滑落して死亡、2015年5月GWには北アルプス奥穂高頂上付近で2名が悪天候に翻弄されて凍死してしまい、更に同時期に飯豊連峰をスキーで単独縦走中に滑落して死亡するという遭難事故が発生してしまいました。

我々のような小さな山岳会にとって衝撃的な遭難事故でしたが、残った我々の責務は山行を自粛する事ではなく遭難事故の教訓を心に刻み、会員の技術力の向上を図り、痛ましい遭難事故を未然に防ぐ事だと考え、安全に留意しながら活発に山行を再開していますので、どこかの山で盛岡山友会の皆様とお会いする機会があると思いますが、その時には宜しくお願い申し上げます。



夢の光岳・聖岳

No.421 小田春美

日程：2017年9月9日～13日

天候：10日→晴れたり曇ったり、11日→曇り、12日→雨と強風のち曇り

メンバー：CL日比野、SL中根、工藤、熊谷、級木、高橋、小田（春）

県外山行の度に「盛岡は端っこにあるなあ」思うのだが、それにしても南アルプスは遠かった。

丸一日かけて標高およそ1000m、最大斜度38度の急傾斜に家々が点在する「天空の里」、そのまた一番高い場所にある宿に着く。地元の食材をふんだんに使った夕食に舌鼓を打ち、翌日からの山行が好天に恵まれるようにと祈りつつ早めに就寝。

10日 早朝、光岳・聖岳の登山口である易老渡までタクシーで向かう。運転手さんに12日のお迎えを確認し登山口で別れる。いよいよだ。期待と不安で緊張する。

橋を渡るといきなりの急登だが整備されているので歩きやすい。今日の目的地は2500mを超す山としては日本の最南端にある光岳。喘ぎつつも予定より早く易老岳に着く。三吉平で昼食の後、光小屋の下部にある水場「清高平」まで、岩のゴロゴロした急登に行く。水場を楽しんだ後、イザルガ岳の登り口を横目に光小屋を目指す。小屋でお茶を戴きながらバイオトイレの説明を聞いた後、山頂に向かう。

標高2591mの頂上は木々に囲まれ眺望はない。写真を撮ってから山名の由来となった「光岩」に下りて行く。石灰岩の岩は林の中に鎮座していて、遠州側から遠望したとき夕陽に照らされると白く光って見えるという。

さて、光小屋は自炊を原則としており、年齢はともかく7人のグループなので食事は頼めない。カップラーメンのお湯も出し渋る。が、人当たりは悪くない。数日後には小屋の管理人さんも下山するとか。

11日 小屋の横から一瞬富士山が見えた。

今日は聖平小屋までだ。5時10分に歩き出すとすぐ周囲はガスに包まれる。昨日の道を易老岳まで戻る。喜望峰から茶臼岳、上河内岳とアップダウンが続く。東側はガスで眺望は無い。西側は大きく崩れている斜面や遠くの山並みが見える。1週間前に同じコースを歩いたYさんは絶景に感激しただろうなあ…とチラリと思う。登山道を夏から秋にかけて咲く様々な花が迎えてくれる。驚いたのはマツムシソウの大群落だ。こんなのは見たこともない！と大喜び。上河内岳の南側は「亀甲状土」で有名ならしい。「直径1～3mの礫質多角形土」ということだが草も茂っており「どれだろうね」などと言いながら通り過ぎる。午後1時を過ぎた頃から足取りも重くなってくる。

ようやく遠くに茶色の屋根が見えた。今夜は小屋のご飯だ、と思うと心が弾む。



14時30分、聖平小屋到着。先着の登山者に問われ「光小屋から来ました」というと「健脚だね」（含・年の割には）と驚かれ、まんざらでもない。まずはウエルカムフルーツポンチをいただく。

夕食時のTVの気象情報によると明日は雨。夜中に目を覚ますと風と雨の音がする。

12日 昨夜皆で話し合い、朝食をおにぎりに変更し出発時間を1時間早める。

雨はそれ程ひどくないが、風が強い。小屋で会ったパトロールの方が「小聖岳の強風をやり過ぎれば頂上を踏めるよ」とアドバイスしてくれたという。その言葉に励まされ出発。薊畑分岐に荷物をテポし頂上を目指す。強風だが谷から吹き上げるのでそれほど怖くない。が、小聖岳を過ぎても風は弱くはならない。「低体温症にならないように」などと考えていたらCLからストップがかかった。「あと1時間10分位だと思うけど、どうしますか？」と皆に問う。それぞれが頂上を目指す意思を表明し続行となる。

あと50mも行けば頂上か、と思われる登山道にテントが張ってある。どうやら若者が二人、昨夜暗くなってから登り、分からなくなっていてバークしたらしい。履物も外に出したままですっかり濡れている。



7時 3013mの聖岳頂上！「聖岳という名前に惹かれました」というMさん。感動に浸る間も無く、写真を撮りそそくさと下山開始。途中テントの若者たちに「早くテントをたたんで下りなさい」とSLが忠告。風はまた強くなってきた。小聖岳の手前でパトロールの方と会う。どうやら私達を心配して登ってきたらしい。感謝しつつ下る。

薊畑分岐を過ぎると樹林帯に入る。風雨も遮られ穏やかな下りだ。湿った登山道でお腹が赤くて背中が緑色のミミズみたいなやや尺取虫のように動く黒っぽい虫を見かける。

西沢渡では人力ゴンドラ(?)で川を渡る。150kg対応の渡し籠は操作がなかなか難しい。

無事2000mの高度差を下りきり便ヶ島で合羽などの整理をする。と、「きゃーっ！」という悲鳴。「ヒルだ!!」なんと全員に3匹も4匹もあの黒っぽい虫がついているではないか。塩をかけても死なず、踏みつぶしてもしたたかだ。30分もかけてなんとかヒルを退治し易老渡に向かう。

15時15分、予定より早い時間だったが、タクシーの運転手さんが駐車場の向こうから歩いてくる。昨日からの強い雨で道路が塞がっているのではないかと心配して早目に来てくれたのだ。駐車場は土砂に埋もれていたが、幸い大したこともなく、無事平岡駅前のホテルに着いた。

その夜のビールの美味しかったこと。満足、大満足。

私にとって赤石山脈はとても手の届かないところだった。まず遠い。長い。キツイ。夫と二人では心もとない。この山は「日本地図の中に存在する」だけで、交通手段や宿泊の計画をたてる前にギブアップしていた。昨年、Kさんに「行くときはお知らせくださいね」とは言ったものの実現できるとは思ってもしなかった。そして山行が決まった後も地図の等高線を見ては不安に駆られていた。一方、メンバーの山行経歴から「安心してついて行ける！」という思いもあった。皆を引っ張ってくれたSLの「皆の技量を知っているから、あんな天気でも頂上を目指せたんだよ。日頃からトレーニングしている賜だ」という言葉に感激し、CLや他の皆さんの山行に対する知識や姿勢に改めて頭が下がりました。

「夢」のまた「夢」だった山の頂上を踏ませていただき、今年一番の山行となりました。

新入会員からのメッセージ

***** 一昨年の納山会以降に入会した方々です *****

きっかけ

No.466 高橋 豊

盛岡に住んで 40 年になるが、地元の山に登れてない事にいつしか考えるようになった。それが次第に膨れ上がり、当時肥満気味だった自分はハードルの高い岩手山を選んだのだ。しかも単独で。5 月末でもあった為、当たり前に残雪もあり、超初心者である自分にはかなりの恐怖と、体力のなさに打ちのめされる山行となった。無事ピークハント、下山は出来たものの帰宅後は日常生活に支障をきたす程の歩行困難に陥る事となった。

これを機に毎朝 4 時起床、起伏のあるコースで約 5 km 1 時間の歩行を継続。結果、約 4 か月で 10 kg の減量に成功し、再び岩手山にチャレンジ。結果、前回よりも大分楽に山行することが出来た。そのうちに、様々な山に興味を持ち始め、様々な技術、知識に追求心を求めるようになり、今に至っている。ここ数年はストイックな山行が多かったが、今後はもっと視野を広く、楽しみながら行いたいと思っている。

道草

No.471 柏木幸代

私が子どもの頃、という数十年も前の事になるのだけれども、小学校の通学路には住宅はほとんどなく、田んぼと藪に両側を挟まれた、2 キロ近い細い坂道を歩いて通っていた。友だちと一緒に道草をしながら歩いていると時間も距離も忘れてしまい、いつも下校する子どもたちの最後のほうの集団だったと、大人になって母から聞いた。

道端には、季節によって様々な草花が生い茂り、踏むと土ぼこりみたいな胞子を出すキノコを、みんなだ踏みつぶして遊んだりもした。ふきのとうを見つけては、ちぎって投げたりしていたので、今にな

っても食べ物という感じがあまりしない。四つ葉のクローバーを 10 本くらい見つけて摘み取ったら、珍しさがなくなって幸運も薄れてしまった気がした。

いつもは友だちと帰る道を、学校を早退してひとりで帰ったことがあった。天気が良く、誰もいない道。自分の足音と、天高くさえざるヒバリの鳴き声が遠くから聞こえた。時おり吹く風が、さらさらと草を鳴らしていた。いつもと同じ道のはずなのに、知らない道のようにも感じた。

私にとっての登山は、そんな子ども時代の道草の続きなのかもしれない。



のんびりと

No.472 小野由理

自然の中で山野草や風景を見ていると心身共にリラックスされます。のんびりと山歩きを楽しみたい

です。毎月あかげらの山行報告を拝見するのが楽しみです。行ってみたい山は沢山ありますが、いざ申込となると躊躇してしまい機会を逃しています。来季は思い切って参加してみようとおもいます。どうぞ宜しくお願いします。

岩手山の裾野

No.474 櫻庭由季子

仕事で八幡平市松尾へ行った。8月上旬、真夏の少しかすんだ空に岩手山。誰に聞いてもお気に入りの場所は「岩手山が見える所」だった。小岩井農場へは9月中旬、やはりまた仕事で行った。子どもが小さかったころ連れて行って以来、久しぶりにまきば園内に入ると目の前に岩手山。雨上がりの澄んだ紺碧の秋空は雲一つなく、放牧場の緑と牛舎の赤い屋根とのコントラストが美しい。毎日見ているはずなのに、岩手山に目を奪われていた。雄大な自然の中にいる私たちは、いつも岩手山の麓でうろうろしている。忙しさに追われている日常の私も、頂上に向かっていつでもどこでもつながっている。



そんな安心感があるからだろうか。なかなか岩手山に登るチャンスが訪れない。「今年こそは」と、もう何年も考えている。山の友と一緒に登れるかもしれない。そう思い立ったのが、盛岡山友会に入ったきっかけだ。20 数年ぶりに岩手山の頂に立って、私たちが暮らす裾野を見下ろしてみたい。

The 山登り

No.475 亀田 英一郎

No.476 亀田 金花

(英一郎) (体重計に乗って) あっ！また体重が増えた！

(金花) 実は私も最近・・・。

(英一郎) ふたりとも運動していないし、犬の散歩だけじゃだめだよな。

(金花) 盛岡市の広報に登山の初心者講習会が載っている。面白そうだから参加してみない！

(英一郎) そうだな。申し込んでみて。

講習会に参加して

(金花) なんか本格的。ハイキングじゃないね。

(英一郎) そうだね。でも鞍掛山に行くのは今度の日曜日だぞ。土曜日に道具を買いに行かなくっちゃ！

初心者講習会を終わって (鞍懸山と三ツ石山)

(英一郎) 山友会って結構居心地良いね。登山中も色々話かけてくれて退屈しないし。

(金花) パパが後ろから色々言わなければもっと楽しい！

(英一郎) 道具もいっぱい買っちゃたし続けてみようか。

(金花) うん、生まれて初めての登山は凄く疲れたけれど、頂上の景色は感激した。

ぜひ、入会しましょう。でも体重減らないね！

という訳で夫婦で入会しました。当面★1つの所だけだと思っていますが、よろしく願いいたします。

旧都南村生まれで、就職からずーっと県外に行っておりましたが、今年4月に62才で仕事は終わりにしまして、生まれ故郷岩手に帰ってきました。現在、滝沢市大釜駅近くに妻と二人で住んでおります。若い時はテニス、40才頃からゴルフをしておりましたが、2年前の年初に立てないほどの腰痛を2回経験しました。腰を強くねじらない、腰への負担が小さい運動ということで、登山はどうかと思い始めました。山といえば子供の頃から見慣れた岩手山、初めての山にしては無謀ということも知らず、2年前の盆休みに帰省した時に登りに行きました。小雨の中、馬返しから新道を登りましたが、5～6合目の間で雨が強くなり断念し登山口へ戻りました。悔しくて、JR滝沢駅まで2時間かけてウォーキングしました。

兵庫県に戻って六甲山近辺を歩いて練習しました。標高は低いけれど電車を降りて歩いてすぐ登山道に入れる所がたくさんあります。冬も歩いて、健康登山で四季を通じて気軽に頻繁に歩くには良い所で、土日はたくさんの方が歩いています。

2か月後の10月10日に岩手山に再チャレンジしました。馬返しから旧道を通って8合目避難小屋へ行ったのですが気温3度の暴風雨で、山頂目前にして断念、お花畑を通して網張に降りました。山は天気次第、北国の名峰はなかなか山頂まで登らせてくれない。

昨年6月に焼き走り溶岩流コースから砂礫の登りに苦戦しながらも、他の植物が生存できない場所に群落をつくるコマクサに驚嘆し、3度目の正直で山頂まで行ってきました。今年7月に盛岡最高気温34度の日に御神坂コースから山頂往復しました。平笠不動小屋近くのシラネアオイの群落が素晴らしい。水2L持参しましたが登りで殆ど飲んでしまい、下りだから水が無くても大丈夫と思いき水も補給せずに下山しましたが、最後はかなりの脱水状態でした。駐車場の自動販売機で3本一気に飲みました。鳥海山は鉾立から新山まで往復する間に7回雪渓を渡りました。お花畑も素晴らしかったです。その他、富士山(富士宮コース)、早池峰山、秋田駒ヶ岳、須川、焼石岳、七時雨山等々登りました。

私は高所恐怖症気味で、尾根道の片側が崖/急斜面とかは苦手で、地図で「馬の背」「やせ尾根」というようなところは出来るだけ避けるようにしております。高所恐怖症の健康目的の登山ですので、鞍掛山3往復/日、姫神山3往復/日、岩山全コース歩き、七つ森散策等々、命の危険の少ない低山を半日～一日かけて歩くのを主に行っております。

(体育会系でジョギング、ロードレースもたまに出走、スポーツも通ってます、飲み会も嫌いではありません。親戚がバーをかり近くでやっています。)



私は今まで無雪期の日帰り単独登山しかしておりません。装備もその程度のもしか現時点では持っておりません。登山歴も2年と経験浅く、皆様のご指導を頂いてレベルを上げることが出来ればと考えています。山行企画部ですが私の経験では、とりあえずはお手伝いから始めて、来年以降は徐々に自分で計画が作れるようになればと考えております。よろしく願いいたします。

山と出逢って

No.478 佐々木優子

山と出逢った13年前。一冊の本に会いました。田中澄江さん著「山はいのちをのぼす」です。山登りは辛いもの、危ないものとはか思っていない時でした。本を読み、エー、そうなの？と思いました。田中さんが言っていることが分からないもののアウトドアは大好きで、いそいそと山へ出かけていました。頂上に立つと清々しい頑張った自分はいいぞーなど思っていました。仕事を辞めたい時も家族のことで悩んだ時も山へは行っていました。



何年か経った頃、気付きました。山に登っているのではない。登らせてもらっているのだと。山からの恩恵を受けていることを。次第に花の名前を覚え、花の時期に合わせて出かけたりと、山に会いに行く感覚になりました。山は私の宝、先生、友達、いつまでも側にいたい。山に行きたいから健康管理する。山に登って心も体も健康でいたい。それが目標です。山の知識を増やし仲間を作り楽しく登りたいです。どうぞよろしく願いいたします。

新人あいさつ

No.479 山口斉

両親の自殺から、2年間、休日は朝から酒を飲んでいる。

先日、3回忌を終えた。

今、山登りを再開したいと思う。

昔、北穂高東稜（ゴジラの背中）に登った時、その日の初登だった。

登り終えて、山小屋で休憩していると、後続のグループの会話が耳に入った。

「バカが空中にトレースをつけやがって……」

確かに気づかずに雪庇に登った箇所があった。

いやな気分になっていると、別のグループが握手を求めてきた。

「大阪労山です。今日は、トレースありがとうございました。おかげで助かりました。」

入会するなら、労山にしようと思っていた。



私の初登山

No.480 竹田真弓

私の初登山は小学4年生の時。学校行事の姫神山登山でした。渋民小学校出発で6年生がリーダーとなり4年生以上1チーム10名位の編成でのぼり旗を立てたリヤカーを押して登山口まで5.5kmを歩きます。地域ごと12チーム位あったでしょうか、他のチームに負けないように頑張ったのを今でも覚えてます。

全員で食べる為の食材やザックを乗せたリヤカーはとても重く舗装されていない山道を押して…押して…往復歩きます。もちろん登山もですから…若かったんですね(笑)

今思い返してみても記憶にあるのは頂上からの景色や眺望ではなくて道のりが辛かった事。喉が渴いてしょうがなかった事。リヤカーの重さ…そして皆で作って食べたカレーの味!!

あれから40年以上が過ぎ今は登山口まで車で行けますし、ピークで淹れたてのコーヒーを飲む事が最高美味しくて贅沢な時間とわかる歳になりました(笑)

最近あの頃のようにピークハントだけではない山の素敵さと不便さを新鮮な思いで楽しみたいと思ってます。

未だ見知らぬ山々に一座でも多く出会えますように願って…

はじめまして

No.481 谷原伸一

山に登るのは、小さなときから好きでした。遠くから山並みを眺めるのも好きで、天候、季節によって山の色が少しずつかわるのが不思議だなと思っていました。学校の席替えのとき、窓際になるとひそかにラッキー、と思ったものです。最近一人の時間がとれるようになり、以前より山によく行けるようになりました。岩手山の異界のような景色、鳥海山のいろんな要素が詰まったルート、好きですね。

鉾立の駐車場で車中泊したとき、雲が切れ満天の星空がひろがりました。銀河がくっきり見え、感動しました。時々はっとする景色と出会わせてくれる、だからやめられないんだな、なんて思ってます。これから登山の幅を拓けていきたいと思っています。よろしくお願いします。



◇◇◇ あ と が き ◇◇◇

12月1日の納山祭に「山友 第29号」を発行する事ができました。例年通りの項目ですが、今年は編集内容や方法を少し変えた部分もあります。

写真ギャラリーは、手持ちの写真の中から選りすぐりのものを提供していただきました。ぜひご覧ください。

専門部及び志向別グループについては、実施日・活動項目及び山行日・山名だけではなく、できるだけコメントを入れていただくようにしました。また、一部の専門部と全志向別グループについては、活動内容がわかる写真を2枚追加していただきました。志向別グループは計8グループですが、「盛友ボルダリング倶楽部」が新たに加わり新鮮さが感じられるものとなりました。志向別グループについては、設立年を追記しました。また、ホームページ等によるカラーでのファイル閲覧を考えて、項目点及び区切り線に色を付けて見やすくなるよう試みました。

会員全員へのアンケートは毎年異なる内容としていますが、今年は「山の日」が始まった事に関連して「8月11日の山の日は何をして過ごしましたか？」を質問してみました。

寄稿文は、山行報告を始めとして短歌、俳句、随筆等様々な原稿をたくさんの方からいただく事ができました。ありがとうございます。

新入会員からのメッセージは、昨年は創立30周年企画等があり掲載できませんでした。今回、一昨年11月以降入会（入会16人、4人退会）の2年間を対象としましたが、ほとんどの方からメッセージをいただく事ができました。ぜひ読んでいただき、会員相互の交流に役立てていただければと思います。

今後とも、「山友」及び「あかげら」編集等会報部へのご協力をよろしくお願いいたします。

会報部長 No.372 辰巳和司

1988(S63)年9月 あかげら No.5
機関誌名が、盛岡山友会ニュースから「あかげら」へ

盛岡山友会ニュース 1988.9.25

盛岡山友会20周年記念行事

全員で 相の沢へ

盛岡山友会も、もう半世紀を過ぎました。創立当初は約10名程で、ほとんどの人が山友会を任じ、活動を続けてきた。この基礎に、会費はあつた。この一周年記念行事は、奥白河市ワセナライで、約30名を招いての甲子行われしました。昨年、昨年、一年に一度、この山友会、大盛況でした。

日時：10月1～2日
場所：相の沢(ワセナライ)
会費：2000円
集まる場所：市民会館 棟
性時、逆時
持参品は
・Tシャツ
・食糧
・夜食(お泊り作ります)
・その他(電卓、時計、カメラ)

キャンプファイヤーもスライド映もあひまろ

扇さん仙台へ転勤

駒ヶ岳で遭難騒ぎ

アマチュアムセン 実例

山友 第 29 号

2017年12月1日

発行者 盛岡山友会 会長 渡邊健治

編集責任者 盛岡山友会 会報部長 辰巳和司

印刷／製本 (有)小松茂印刷所
盛岡市大沢川原2-5-37